



国際交流基金
令和4(2022)年度 年報

THE JAPAN FOUNDATION
2022-2023

国際交流基金 令和4(2022)年度 年報

2023年10月発行
編著・発行／独立行政法人国際交流基金 広報部
〒160-0004 東京都新宿区四谷1-6-4 TEL03-5369-6075 FAX03-5369-6044
編集・制作／株式会社エフピーアイ・コミュニケーションズ



日本の友人をふやし、 世界との絆をはぐくむ

国際交流基金は、「文化」と「言語」と「対話」を通じて日本と世界をつなぐ場をつくり、人々の間に共感や信頼、好意をはぐくんでいきます。

独立行政法人国際交流基金 (JF) は、世界の全地域において、総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関です。「文化芸術交流」、「海外における日本語教育」、「日本研究・国際対話」の三つの分野を柱として、本部、京都支部、二つの附属機関 (日本語国際センター及び関西国際センター)、さらに 25 の海外事務所 (2023 年 3 月 31 日時点) をベースに活動しています。世界と日本の人々が、お互いの理解と絆を一層深められるよう、さまざまな交流をつくり出していきます。

文化芸術交流

海外の異なる文化や芸術に触れる感動は、言語の違いを越えて、相手への興味と共感を生み出します。日本の文化・芸術を幅広く世界に紹介し、人々の心の距離を近づけます。

文化

海外における日本語教育

海外の人たちに日本語を知ってもらうことは、日本への親しみや理解を広げるきっかけとなります。世界中で多くの人に日本語を学んでもらえるよう、各国の日本語学習環境の整備を進めています。

言語

対話

日本研究・国際対話

海外での日本研究を支援することや、世界との対話に持続的に取り組むことにより、相互理解と信頼を深め、共通課題の解決に向けたグローバルな協働や人的ネットワークの形成を推進しています。

FIELDS

「文化芸術交流」、「海外における日本語教育」、「日本研究・国際対話」の三つのフィールドで事業を展開しています。

助成する・支援する

文化交流のために活動する人々に、資金の一部を提供したり、多くの人の活動を容易にするツール、機会や場所を提供する等、文化交流活動を側面から支えます。

企画する・主催する

展覧会や舞台公演、国際会議、海外の文化人の招へい等、文化交流が行われるための機会を自ら創出しています。

ORGANIZE

SUPPORT

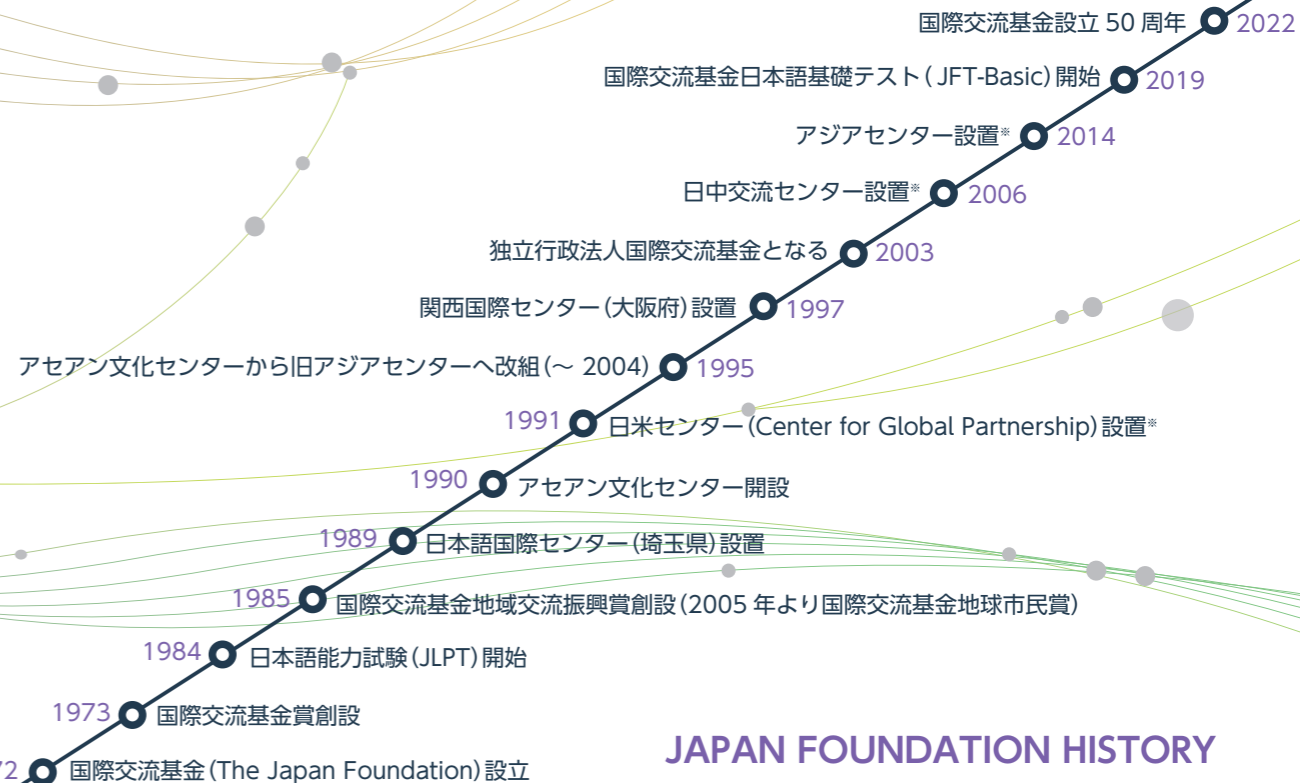
NETWORK /
INFORMATION

APPROACHES

文化の幅広い分野で活動する人々をサポートし、継続的な交流が可能となるような機会の創出と環境づくりを行います。

ネットワークをつくる・交流の土台をつくる

文化交流活動を行う人にとって必要な情報や素材を収集したり、人と人とのネットワークをつくる等、国際文化交流の土台づくりとすそ野の拡大を継続的に行っています。



*日中交流センター、日米センター、アジアセンターは 2022 年 4 月 1 日をもって、組織改編されました。

理事長からのごあいさつ

国際交流基金（JF）は2022年に設立50周年の節目を迎えることができました。

新型コロナウイルス感染症の流行が一定の落ち着きを見せ始め、世界的にウィズ・コロナやアフター・コロナといったフェーズへの移行が少しずつ進んだ1年でした。JFとしても、「文化・言語・対話」の三つの分野で、人の往来を伴う事業を本格的に再開でき、「リアル」だからこそその意義を改めて実感するとともに、コロナ禍の経験を踏まえた新たな事業の在り方についてもさまざまな示唆を得る年になりました。

国際交流基金賞は3年ぶりに対面にて授賞式を開催しました。式典には秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご臨席を賜り、秋篠宮皇嗣殿下からは「今後の国際社会において文化交流がますます必要となる中で、国際交流基金の役割も今まで以上に重要なものになっていく」との励ましのお言葉を賜りました。

また、設立50周年を記念して、特設ウェブサイト「世界との絆を紡いで50年 そして未来へ」を開設しました。この記念サイトでは、JFがこれまで取り組んでまいりました主な活動や、世界各地の国際文化交流の第一線でご活躍されている関係者の

方々の記事を掲載しています。ぜひ一度、このサイトをご覧ください。また、国際文化交流の半世紀を振り返っていただければ幸いです。

2022年度は、コロナ禍での経験や蓄積も生かして、各分野でさまざまな事業を再開しました。「文化」の分野では、日本の多様な芸術や文化を多言語字幕付きで紹介する動画ポータルサイトを新設したほか、海外のキュレーター招へいや国際図書展への専門家派遣等、コロナ禍で中断していた対面による人的交流事業も多く実施しました。また、日本映画上映事業においても、オンサイトとオンラインを効果的に組み合わせたハイブリッドな取り組みを加速させ、世界各地で観客の輪を広げました。「言語」の分野では、「2021年度海外日本語教育機関調査」の結果を11月に発表し、141の国・地域、1万8000を超える教育機関で、379万人以上の方が日本語を学習していること、また、多様な学習目的・理由について確認しました。「対話」の分野では、ゲーテ・インスティトゥート、ブリティッシュ・カウンシルとの共催により国際シンポジウム「不確実な時代の国際文化交流：日・独・英の現場から」を実施し、各機関の代

表や関係分野の専門家が各々の経験や実践を織り交ぜながら文化交流の新たな可能性や将来像について議論を深めました。また、東南アジアと日本を代表する知識人や次世代の有識者が一堂に会し、次の半世紀に向けた新たな日本－ASEAN関係についてさまざまな論点から議論する国際シンポジウムを東京で開催しました。

2023年は日本ASEAN友好協力50周年記念に当たる年ですが、JFが2014年から2021年にかけて実施した「文化のWA（和・環・輪）プロジェクト～知り合うアジア～」の果実や、周年の盛り上がりをも十分に生かしながら、日・ASEAN関係の一層の発展に寄与できるよう、魅力ある文化交流事業を実施していく所存です。さらに、次の50年においても更なる飛躍を果たせるよう、今後とも全世界で時流・時機を捉えた活動を展開してまいります。引き続き、ご理解・ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2023年10月

独立行政法人国際交流基金（JF） 理事長 梅本和義



THE JAPAN FOUNDATION

2022-2023

Contents	1	国際交流基金（JF）の概要
	3	理事長からのごあいさつ
	5	国際交流基金設立50周年特設ウェブサイト
国際交流基金の事業		
	7	文化[文化芸術交流]
	10	言語[海外における日本語教育]
	15	対話[日本研究・国際対話]
	19	顕彰事業
	21	2022 海外事務所の取り組み

資料編	
事業実績	
27	文化芸術交流
28	海外における日本語教育
29	日本研究・国際対話
30	世界の拠点紹介
31	民間からの資金協力
33	財務諸表
36	諮問委員会等／組織図
37	ウェブサイト・ソーシャルメディアのご案内

世界との絆を紡いで50年 そして未来へ

国際交流基金(JF)設立50周年を記念して、特設ウェブサイト「世界との絆を紡いで50年 そして未来へ」を開設し、同名の記念冊子を刊行しました。ウェブサイトでは、JFの50年の歩みを世界の出来事や当時の写真とともに振り返り、世界中に広がるJF事業をさまざまなデータから紐解きました。また、世界各地の現場でJF事業にご尽力いただいた関係者へのインタビューを行い、JFのこれまでとこれからを見つめる特集記事を制作しました。ここでは、各事業分野の特集記事を中心にをご紹介します。

記事全文を読みたい方はこちらへ

国際交流基金設立50周年記念特設ウェブサイト <https://jf50.jpf.go.jp>



響きあう魂 — 「ジャポニスム 2018」が残したもの

JFが創設以来取り組んできた、日本の文化芸術の海外への紹介。日仏友好160年の節目である2018年に、パリを中心に催された「ジャポニスム 2018：響きあう魂」は、その集大成とも言える大型日本文化フェスティバルでした。JFが事務局となり、数々の企画を主催した、かつてない規模の日本文化・芸術の祭典の軌跡をたどります。



「若冲 — 動植綵絵」を中心に展の会場となったパリ市立プティ・パレ美術館

“芸術とは他者と自分自身を知ろうとする闘いであり、最終的に何かを一緒に作り上げる闘いでもある。それが一般的な文化交流にはない部分です”

異文化を理解しようとする過程を経て、「芸術」が生まれる国際共同制作の舞台



撮影：谷古正彦

アジアの日本語学習熱の高まりを受け、多様化する学習動機に応える

海外の日本語学習者の大半を占めるアジア地域の人々。各国の教育政策や日本との関係によって、学習動機も変化します。時代や社会の変化、多様化する日本語学習の需要に応じたJFの日本語教育事業について、また日本語を学ぶ各国の人々の様子を知ることができます。



2019年度「EPA 訪日前日本語予備教育事業」インドネシア13期生の発表活動の様子

“文学というのは、人間が言語を使って作りだすもっとも精密な創作物のひとつ。外国語で書かれた文学をとことんまで理解して翻訳するという行為は、もっとも困難であり、なおかつ、最高の国際交流だと思っています”

日常生活、若者の姿、地方の魅力……本を通じて深まる異文化への理解

米国人研究者が解き明かす、『源氏物語』の奥深き世界

JFは「日本研究フェロウシップ」プログラムを通じて、日本研究に携わる学者・研究者を日本に招へいし、研究・調査を行う機会を提供しています。JFのフェロー（1995年・2013年）であるハーバード大学のメリッサ・マコーミック教授が監修した、日本文化フェスティバル「Japan 2019」（2019年米国開催）における展覧会『源氏物語』展 in NEW YORK ～紫式部、千年の時めぎ～を振り返ります。



2019年に開催された『源氏物語』展 in NEW YORK ～紫式部、千年の時めぎ～の会場、メトロポリタン美術館の正面玄関ホールに掲げられた同展のパナー

“日本のやり方をただ押し付けるのではダメです。相手を理解し、自分も成長できている、幸せになっている、と感じられることが大事。それが真の意味での国際交流にもつながると思うのです”

「互いに学び、互いに強くなる」スポーツで育まれていくアジアとの絆



写真提供：ギョウゲンツ北九州

地域の伝統・文化を通じた「心の復興」：震災を乗り越えて

2011年3月11日に発生し、東北地方を中心に甚大な被害をもたらした東日本大震災。JFでは、震災翌年から多岐にわたる復興支援事業を実施しました。被災地の文化をよりどころとして、国際文化交流事業を通じて地元の人たちが立ち上がっていった過程で、JFがどのように関わってきたかをお伝えします。



「三陸国際芸術祭2019」で披露された国際共同制作芸術「シシの系譜／その先に」

“三陸とバリは遠く離れていて、文化圏も全く違うのに、地元の踊りに共通性がある不思議……それは、交流しなければ気づかなかったことでした”

地域の伝統・文化を通じた「心の復興」：震災を乗り越えて

日本の豊かな文化芸術を海外へ紹介

伝統芸能から現代アートまで多様な日本文化の魅力や、展覧会、舞台公演、翻訳出版、映画、テレビ等さまざまな形で、世界に向けて紹介しています。人と人とが顔を合わせる交流事業や催しを段階的に再開するとともに、これまで拡充してきたオンラインでの取り組みにも引き続き注力することで、ウィズ・コロナの時代に即した多様な交流の形を追求しました。

ウィズ・コロナ時代の文化芸術交流に向けて

中断していた専門家同士の「リアル」な交流事業を再開。海外の日本美術専門家へのフェローシップ供与や現代美術キュレーターの日本招へい、日本の絵本評論家の国際児童図書館への派遣等を行い、実際に顔を合わせた対話と交流、情報収集の場を創出しました。同時に、日本の多様な芸術や文化を多言語字幕付きで紹介する動画をまとめたポータルサイト「Doors to Arts of Japan」を開設、累計1800万回を超える視聴回数を誇る日本の舞台公演オンライン配信プロジェクト「STAGE BEYOND BORDERS」とともに、多くの視聴者を集めています。

コロナ禍での経験を踏まえて引き続きオンラインを十分に活用しつつ、オンラインとリアルを使い分け、組み合わせて、情報発信とネットワーク構築に力を注ぎ、新たな時代の文化芸術交流の基盤づくりを目指します。



石橋財団・JF 現代美術キュレーター等交流事業により
米国から招へいたキュレーター・グループの
戸谷成雄氏アトリエ訪問(2023年3月)



「ポーロニャ国際児童図書館 2023」における
広松由希子氏(絵本評論家)によるレクチャー
(2023年3月)



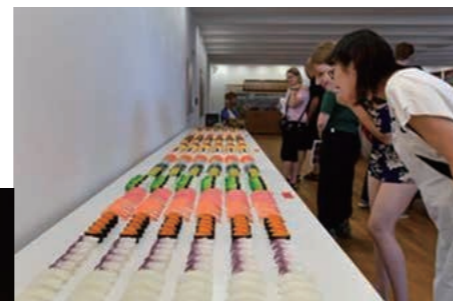
日本の芸術・文化を多言語字幕付きで
紹介する動画のポータルサイト
「Doors to Arts of Japan」

文化

文化芸術交流

海外の異なる文化や芸術に触れる感動は、
言語の違いを越えて、相手への興味と共感
を生み出します。

日本の文化・芸術を幅広く世界に紹介し、
人々の心の距離を近づけます。



海外巡回展「すしを愛でる」ケレン展
(2022年7月、ドイツ)



「Boom Pam & The Spirit of Tohoku」公演
(行山流水戸辺鹿子躍保存会／2022年9月、イスラエル)



ミニシアター特集配信企画「JFF+ INDEPENDENT CINEMA」

コロナ禍の影響残る中での日中国交正常化50周年

日中国交正常化50周年の機会を捉え、活躍中の日本人建築家22組による展覧会と日本の伝説的人気コミックをミュージカル化した公演とを企画。コロナ禍の影響が残る中、日中で力を合わせて実現させた両事業は総計5万人近くに鑑賞され、盛り上がりを見せました。

2022年11月から3か月間、横文彦氏が設計した「深圳海上世界文化芸術中心」で開催された日本現代建築展「Beyond Borders: Architectures of Japan」では、日本の建築家たちが中国で手掛けた建築の数々を紹介しました。開催都市は1か所のみとなりましたが、入場者数は2万人を超え、併催オンライン・シンポジウムにも3000人が参加し、好意的なコメントが多数寄せられました。

ミュージカル『フィスト・オブ・ノースター〜北斗の拳〜』は、中国公演のために企画された、日本のキャストに中国のダンサーが参加する作品でした。コロナ禍のため公演の収録映像をオンライン配信に切り替え、結果としてSNS上で大きな反響を得ました。



『フィスト・オブ・ノースター〜北斗の拳〜』
オンライン配信(2023年1月、中国)

〈Beyond Borders: Architectures of Japan〉
(2022年11月～2023年2月、中国・深セン)における
ジャオ・チー氏(建築史家)による展示ガイドツアー
模型:伊東豊雄 <寧波華茂国際教育図書館>(2015～)



世界各地での日本映画上映

69か国・地域において日本映画の上映会を開催し、約14万人の観客に日本映画を届けました。英国で20周年を迎えた巡回上映会では24都市で172回の上映を行い、ドイツとアルゼンチンでは、近年、映画監督としての再評価が進む女優としても名高い田中絹代監督の特集上映を開催。米国ニューヨークの「森田芳光監督」特集では、プロデューサーの三沢和子氏が登壇し、大勢の観客が詰めかけました。日本・カンボジア外交関係樹立70周年事業として実施したカンボジア日本映画祭(JFF)では、オープニングにカンボジア文化芸術省大臣が臨席し、クラシックからアニメに至る幅広い日本映画29作品を上映しました。その他、在外公館等が主催する上映会に作品を提供し、その参加者は4万人*に上りました。 ※ JFとの共催上映との重複を含む



インドネシア日本映画祭会場にて



バングラデシュ日本映画祭オープニング



カンボジア日本映画祭にて。クレヨンしんちゃんファンたち。
© U/F・S・A・A



英国巡回上映会 ダービーにて

ミニシアター特集配信企画「JFF+ INDEPENDENT CINEMA」

日本の地域社会と深く結びつきながら多様な日本映画の秀作を上映している地方都市の小規模な映画館(ミニシアター)に焦点を当てた特集配信事業「JFF+ INDEPENDENT CINEMA」を、2022年12月から2023年6月の6か月間にわたって全世界向けに実施しました。2023年3月までの4か月間に特設サイトを訪問したユニークユーザー数は約13万人、ページビュー数は約41万回を記録し、113か国・地域で視聴された配信映画の延べ視聴者数は約2万人、再生回数は約3万回に及びました。



テレビ番組紹介

日本のコンテンツが放送・配信されにくい国・地域を対象に、日本理解のきっかけとなるようテレビ番組を紹介する事業を実施。2022年度はドラマ、アニメ、バラエティ、映画、ドキュメンタリー等、93か国において714番組が放送されました。



『キテます。BONSAI』



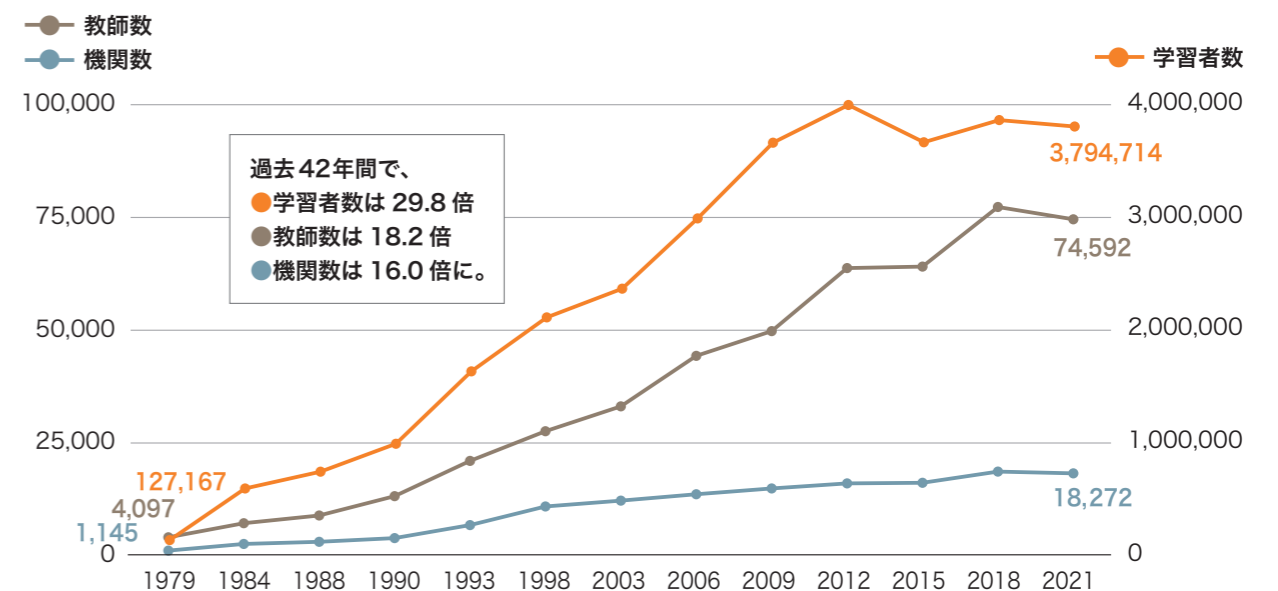
『Explore Japan : 合気道』



海外における日本語教育

海外の人たちに日本語を知ってもらうことは、日本への親しみや理解を広げるきっかけとなります。世界中で多くの人に日本語を学んでもらえるよう、各国の日本語学習環境の整備を進めています。

日本語学習者/教師/教育機関数の推移



2021年度「海外日本語教育機関調査」

海外の日本語教育環境の整備

海外において質が高く安定した日本語教育が広く実施されるよう、各国・地域の状況等を踏まえつつ、現地の行政機関や主要な日本語教育機関と連携して主に次の事業を行い、各地の日本語教育環境の整備を進めました。

日本語専門家等の海外派遣

JF 海外事務所や海外の教育省、教育機関に日本語教育の専門家や指導助手、若手日本語教員を派遣し(42か国130ポスト)、現地日本語教師への研修、教材作成・日本語教授法等の助言、教師間ネットワーク形成支援、教育機関への巡回指導等を実施しました。コロナ禍を乗り越え、対面の活動も復活してきました。



ソウル日本文化センターの日本語専門家コースデザイン・運営協力し韓国の小中学生が楽しみながら日本語に触れられる「日本語1日キャンプ」を開催



ブダペスト日本文化センターの日本語上級専門家が中東欧の日本語教師向けに研修会を企画し教授力向上とネットワーク形成を支援

日本語教育機関支援

JF にほんごネットワーク(さくらネットワーク)メンバーや世界各国の日本語教育機関が実施する、日本語講座運営、教材購入・制作、弁論大会、日本語教育セミナー、シンポジウム等の日本語普及活動に対して助成を行いました。

※「さくらネットワーク」メンバーは、各国の中核的日本語教育機関・団体。2022年度末現在102か国・地域357機関。



日本についての知識を競う中学生向けトリビアクイズ大会(ニュージーランド)



フィンランド語での日本文化読み聞かせ絵本動画の制作(きつぷちゅーぶ提供)(フィンランド)

海外の日本語教師に対する研修

海外での日本語教育を担う人材のスキルアップを目的とした日本語教師研修を実施しています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響下でほとんど実施できなかった招へい・集合研修を全面的に再開しました。また、2021年度に開始したオンライン研修も引き続き実施し、オンラインで教授法の理論や指導のための基礎知識を学ぶ機会を提供しました。



海外日本語教師研修の授業風景(日本語国際センター)

海外の学習者への学習機会の提供



李秀賢氏記念韓国青少年訪日研修

各国の外交官・公務員や研究者等を招へいし、職務や研究に役立つ専門日本語の研修を行ったほか、日本語学習者等の訪日研修を実施しました。日本語能力の向上だけでなく、協力機関との交流や各種文化体験を通じ、参加者の総合的な日本理解を深めることを目的としています。

海外に在留する邦人の子等に対する日本語教育

海外に移住した邦人の子どもや外国人と日本人を両親に持つ子どもに対する日本語教育について、バイリンガル・マルチリンガル子どもネット(BMCN)の年次大会の一部を共催しました。また、韓国、豪州、カナダ、米国、英国、スペイン、ドイツ、ブラジル、メキシコでもセミナー等の実施やネットワーク構築に努めました。



2022年度 BMCN 年次大会 ジム・カミンス博士(トロント大学名誉教授)による基調講演

日本語パートナーズ派遣事業

年齢も経歴も多様な人々が、生きた日本語を伝え、学び合う

日本語パートナーズは、アジアで日本語を教える教師や生徒のパートナーとして、授業のアシスタントや日本文化の紹介を行います。2022年度は、ASEAN 7か国と中国・台湾の中学・高校・大学等に、279名を派遣しました。専門知識がなくても、アジアでの交流に熱意を持つパートナーズたちがそれぞれの経験や強みを活かし、ネイティブだからこそ生きた日本語、リアルな日本を伝えていきます。教師や学習者、地域の人々への敬意をもって対等な立場で交流するとともに、パートナーズ自身も現地の言葉や文化を学び、現地の人々との絆を深めています。



参加者の声

日本語パートナーズ(NP)



フィリピン9期
大谷 海さん

生徒が興味のある日本文化を紹介する活動を通じて、私にとっては当たり前の日本の日常が、実は誇れる文化や伝統であることに気がきました。生徒と共に日本の新たな一面を知ることが楽しく、自分の視野も広がりました。今後は小学校教員として、日常生活では気付けない日本の良さを伝えていきたいです。

タイの派遣先校の先生



サトリブラスート
シン学校
ウィティアンティアブ・
ワッタナ先生

日本語コンテストに出場したいと考えている生徒に対して、NPと協力して日本語の発声練習をしました。NPが来たことで、生徒は以前より日本語を積極的に使うようになったと感じています。NPから最近の日本事情や漫画に関する雑学等を教えてもらい、生徒だけではなく、教師である私も勉強になりました。

インドネシアの派遣先校の生徒



ブルガス第1国立
高等学校
ラシェル・
セプティアンさん

日本語だけでなく、日本文化を学ぶことにも興味があります。文化祭で、NPと日本語の先生に教えてもらいながら元氣よくソーラン節を踊る同級生を見て、日本文化にさらに興味を持つようになりました。いつか留学や旅行で日本に行くことができたらいいなと思っています。

海外における日本語教授法及び 日本語学習者の能力評価の充実

日本語普及のため、新たな教授法や学習素材の提供、日本語学習者のための日本語能力試験 (JLPT) 及び外国人材受入れのための国際交流基金日本語基礎テスト (JFT-Basic) の実施、日本語教育に関する調査等の事業を行いました。

日本語教授法に関する情報発信と学習素材の提供

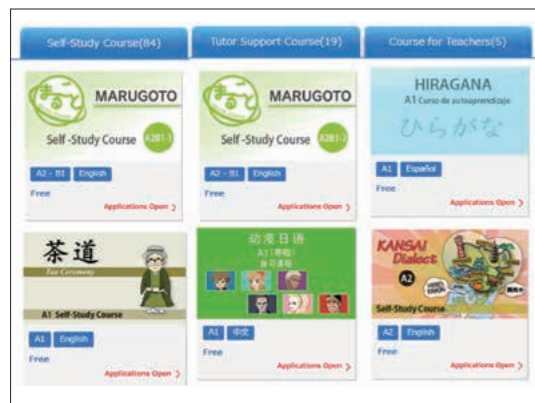
「JF 日本語教育スタンダード」は、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) の考え方に基いて JF が開発した、日本語の学び方、教え方、評価の仕方を考えるための枠組みです。その準拠教材として、『まるごと 日本のことばと文化』については、中国・エジプトで新たなレベルの出版、「まるごとサイト」で提供するサポート教材等の多言語化を、『いんどり 生活の日本語』についてはコンテンツの拡充をそれぞれ進めました。また、日本語学習番組『ひきだすにほんご Activate Your Japanese!』(2021年度、NHK エデュケーショナルとの共同制作) を教材として活用するための新ウェブサイトを開発しました。新サイトでは、番組をコーナーごとに切り分けた動画、多言語字幕、ダウンロード資料等授業や自習に役立つ内容のほか、ウェブサイト限定動画も配信しています。



「ひきだすにほんご Activate Your Japanese! コンテンツライブラリー」サイトトップ



2022年度に出版した『まるごと』
左:「初中級」(中国版) 右:「入門」りかい(エジプト版)



日本語学習プラットフォーム「JF にほんご eラーニング みなと」
トップページ 開講コース(一部)

eラーニングの開発・運営

日本語学習プラットフォーム「JF にほんご eラーニング みなと」の年間受講者数は189か国・地域の約14万3000人に上りました。オンライン教育に対する需要の高まりに応え、「まるごと日本語オンラインコース」初中級 (A2B1) コースの追加等コンテンツの拡充を行いました。また、新たに日本語教師向けのオンラインコースを開講しました。

海外日本語教育機関調査

海外の日本語教育の現状を把握するため、3年に一度「海外日本語教育機関調査」を全世界で実施。コロナ禍で行った2021年度調査の結果を記者発表したほか、報告書、各種集計表、「日本語教育機関検索サイト」をJFウェブページで公表しました。初めてオンライン授業の実施状況を調査し、世界全体で6割を超える機関における実施が確認できました。



2021年度「海外日本語教育機関調査」結果概要記者発表の様子

日本語能力評価のための試験の実施

日本語能力試験 (JLPT) は、日本語を母語としない日本語学習者を対象として1984年から実施されている世界最大規模の試験です。2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響からの回復の兆しが見え、7月試験はレスター (イギリス)・ジッダ (サウジアラビア) 及びアグアスカリエンテス (メキシコ) で新規に実施し、海外52か国141都市で約26万8000人が応募、21万5000人が受験しました。12月試験はウボンラチャタニ (タイ)・キシノウ (モルドバ)・バンクーバー (カナダ)・モントレーベイ (米国) 及びリヤド (サウジアラビア) で新規に実施し、海外81か国193都市で29万3000人が応募、24万1000人が受験しました。



2022年度より新規に実施されたリヤド(サウジアラビア)での日本語能力試験 (JLPT)

国際交流基金日本語基礎テスト (JFT-Basic) は、主に就労のために来日する外国人が遭遇する、生活場面でのコミュニケーションに必要な日本語能力の測定を目的としたコンピューターテストで、2019年に開始しました。2022年度は新たにバングラデシュでテストを開始し、アジアの11か国19都市及び日本国内で約4万7000人(前年度約3万600人)が受験しました。



JFT-Basic 受験者インタビュー動画

外国人材受入れのための日本語教育事業

日本での生活・就労を目指す人々の日本語能力習得を支援する取り組みをインドネシア、フィリピンをはじめとするアジア9か国で実施しました。ウェブ教材『いんどり 生活の日本語』は新たに5言語を加え計16言語となり、年間約298万件のアクセスがありました。また、同教材をもとに開発した「いんどり日本語オンラインコース」は、入門 (A1) コースの日本語・英語版、初級1・初級2 (A2) コースの8言語版を新たに公開しました。各国では、日本語専門家と生活日本語コーディネーターが教材の紹介や教授法セミナー等を行いました。



『いんどり 生活の日本語』フライヤー



送り出し機関での聞き取り調査(タイ)

関西国際センター設立25周年

関西国際センターは、2022年に設立25周年を迎えました。式典では、過去の研修修了者であるアレクサンドラ・コヴァチュ駐日セルビア大使をお招きし、研修で得られた知見等をお話いただきました。また、2023年3月には、外国人材の受け入れ・共生のための日本語教育支援をテーマに、各国でのJFの取り組みや制作教材等のリソースを共有、紹介し、日本国内の日本語教育支援への活用について考える記念シンポジウムをオンラインで開催しました。



コヴァチュ駐日大使(中央)を囲む外交官・公務員研修参加者

海外の日本研究

諸外国における日本への理解を深めることを目指し、各国の日本研究を支援するとともに、国内外の研究者及び研究機関のネットワーク形成を促進する事業を実施しています。

対話

日本研究・国際対話

海外での日本研究を支援することや、世界との対話に持続的に取り組むことにより、相互理解と信頼を深め、共通課題の解決に向けたグローバルな協働や人的ネットワークの形成を推進しています。



2022年5月開催：「文化交流が拓くアジアのビジネス」
(第27回日本経済新聞社主催 国際交流会議「アジアの未来」)

右から磯部大將氏(イオンモールインドネシア 前代表取締役社長)、河島伸子氏(同志社大学教授)、アビナン・ポーサーナン氏(バンコクアートビエンナーレ芸術監督(オンラインにて参加))、佐藤百合(国際交流基金理事)



2022年10月開催：国際シンポジウム
「不確実な時代の国際文化交流：日・独・英の現場から」

上段右：マシュー・ノウルズ氏(ブリティッシュ・カウンシル駐日代表)
上段左：コロラ・レンツ氏(ゲーテ・インスティトゥート総裁)
下段右：ジョナサン・マックロー氏(モデレーター/Sanctuary Counselパートナー)
下段左：梅本和義(国際交流基金理事長)



東京大学にて実施した「JF-GJSイニシアチブ」第1回日本研究フェロー・カンファレンス」に集う訪日研究活動中の招へいフェロー



北米フェローによる交流会

日本研究者の支援

海外において日本に関わる研究を行う学者・研究者を招へいする「日本研究フェローシップ」では、2022年度は新たに84名に対して訪日研究の機会を提供し、前年度から継続する133名と合わせて計217名のフェローが日本での研究活動を行うとともに、フェロー・カンファレンスや交流会、体験報告、研究発表会等、新たな交流事業も展開されました。



中国の日本研究50年

日中国交正常化50周年と国際交流基金設立50周年を記念し、関係者40名にインタビューを実施。時代の大きな変化の中でも、絶えず人々の心をつないできた中国の日本研究。この歩みを記録したインタビューは、ドキュメンタリー動画にまとめられたほか、個人別のアーカイブとしてもインターネット上で公開されています。

日本研究ネットワークの支援

日本研究に関わる研究者や知日層及び関連機関を横断的に結び付け、ネットワーク化を図ることにより、海外における日本研究の発展と進化に寄与することを目指しています。



「第4回次世代日本研究者協働研究ワークショップ」
若手の日本研究者が国際的・学際的な研究者として活躍できることを目指し、2018年度から開催。2022年度は、まずオンラインでの講義を行った後、日本での対面による協働研究を組み合わせたハイブリッド方式にて実施。

日本研究機関への支援

各国・各地域の日本研究機関に対する支援を通じ、海外での日本研究の長期的な発展・拡大を図っています。



出版支援を行ってきた高麗大学の日本語文学研究ジャーナル『跨橋』
2022年、世界最大級の抄録・参考文献データベースである『SCOPUS』に日本語学術誌として初めて掲載されました。

国際対話・ネットワーク形成の推進

国際シンポジウム・セミナー・ワークショップ等を通じ、グローバルな共通課題についての対話と人的ネットワークの構築に取り組むとともに、新たな価値の創造・共有を目指した先駆的な対話事業にも取り組んでいます。また、将来の交流の礎となる市民・青少年の交流事業や人材育成事業等を実施しています。

日本 ASEAN 友好協力50周年記念国際シンポジウム

日本 ASEAN 友好協力50周年を記念し、2023年3月に東京で国際シンポジウムを開催。マルティ・ナタレガワ元インドネシア外務大臣による基調講演のほか、「世界／地域の平和と安定に向けて」（政治）、「持続可能で豊かな社会の実現に向けて」（経済・社会）、「人々の相互理解と信頼醸成に向けて」（文化）の三つのパネルを通じ、東南アジアを代表する知識人・次世代のリーダー 13名と日本の有識者が、次の半世紀に向けた新たな日・ASEAN 関係について議論を行いました。



国際シンポジウム「新たなステージを迎えた日・ASEAN 関係 ―グローバル・パートナーシップの構築に向けて―」でのマルティ・ナタレガワ元インドネシア外務大臣による基調講演



林外務大臣及びシンポジウム登壇者

日米次世代パブリック・インテレクチュアル・ネットワーク事業



訪日研修

米国のモーリーン&マイク・マンスフィールド財団と共同で、日米の政策・世論形成への関与が期待される中堅・若手世代の専門家を対象に、両国のアジェンダ理解やネットワーク形成を目的としたさまざまな研修プログラムを実施しています。2022年5月には第5期生を対象に東京及び京都、大阪での研修を行ったほか、8月にワシントン DCでプログラムの成果発表を目的としたセッションを開催しました。

日米グローバル・パートナーシップ強化事業

日米両国が協力してグローバルな課題に取り組んでいくことを目指して、「レジリエントな社会の構築」、「社会的包摂の実現」、「科学技術で豊かな社会の実現」といったテーマに基づき、日米双方のカウンターパートと共同で、日米間の協働や人材育成を支援する多様なプロジェクトを実施しました。



日米対話フォーラム「文化芸術を通じた多様性社会推進に向けて―ソーシャルサーカス―」のアプローチがもつ可能性―



「Collective Impact Learning Journey ~共創を通じた社会課題解決に向けた国境を越えた学び合いと実装~」訪米視察



JOIアラムナイ・ネットワーキングイベントの様子

JOIプログラム アラムナイ・ネットワーキングイベント

日本の文化紹介を行う草の根交流コーディネーターを米国の南部・中西部・山岳部地域に派遣する JOI プログラムは、2022年に設立20周年を迎えました。2022年9月には、これまでに派遣されたコーディネーターを集めたアラムナイ・ネットワーキングイベントを東京で開催し、アラムナイ同士の繋がりの強化を図るとともに、JOIプログラムの更なる発展に向けた新たな取り組みに関するアイデア交換を行いました。

日中21世紀交流事業

日中国交正常化50周年を記念して、両国青少年間の交流深化を目的とした「ショートショート創作コンテスト」を実施し、日本と中国の学生が自由な発想による創作を行いました。また、過去の参加者間でのネットワーク形成のため「日中21世紀交流事業参加者交流会」を2023年2月に東京で実施。中国高校生長期招へい事業・中国ふれあいの場事業等の参加者100名以上が一堂に会し、日中交流事業への参加経験が現在にどのように活かされているか等を語り合いました。



日中21世紀交流事業参加者交流会の様子

オンラインによる国際対話

歴史学者のユヴァル・ノア・ハラリ氏とロボット工学者の石黒浩氏（大阪大学教授）によるテクノロジーの進化と社会をテーマにした対談（「朝日地球会議2022」特別共催セッション）や食と農のサステナビリティに関するシンポジウム（「日独対話から考える食の未来」ベルリン日独センター共催シンポジウム）をオンラインで開催。日本と各国の有力な有識者との国際対話・ネットワーク形成に取り組みました。



「朝日地球会議 2022」特別共催セッション「テクノロジーと社会―未来をどうつくる」



ベルリン日独センター共催シンポジウムタイトル画像

顕彰事業

国際交流基金賞

学術、芸術その他の文化活動を通じて、国際相互理解の増進や国際友好親善の促進に特に顕著な貢献があり、引き続き活躍が期待される個人・団体へ国際交流基金賞を授与しています。49回目となる2022年度は、74件の中から、3件の受賞者を決定しました。授賞式には、秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご臨席を賜りました。

●2022年度国際交流基金賞の受賞者・団体及び授賞理由

ロベール・ルパージュ（俳優、脚本家、舞台・映画監督）【カナダ】

ロベール・ルパージュ氏は、自身が俳優としても舞台に立つ演出家、劇作家であり、創作集団としてカナダで創設した「エクス・マキナ」を率い、演劇、オペラ、映画そしてサーカスまでその活動領域は広範囲に及ぶ。特に、最新のテクノロジーを果敢に取り入れた独自の演出は、これまでの常識を覆すものとして世界から高い評価を受けている。日本との関わりも深く、広島を題材にした作品『HIROSHIMA 太田川七つの流れ』等演出作品の来日公演や、日本人アーティストとのコラボレーションを活発に行う等、日本の舞台芸術界に大きな影響を及ぼし、こうした彼の活動は国際相互理解の促進に貢献している。



© V. Tony Hauser

社団法人 韓日協会【韓国】

社団法人韓日協会は日韓両国の友好親善と共同繁栄を促進することを目的として1971年に設立された。その後今日に至るまで50年にわたり、日韓両国間の相互理解の基盤となる日本語教育分野において、青少年層を対象とした未来志向の地道な活動を続けている。韓国の中高生を対象とした日本語学力コンテスト、大学生を対象とした日本語翻訳大会、「李秀賢記念事業」を毎年実施する等、若者の人材発掘・育成事業に関わってきた。また、日本留学&日本就職フェアの実施を通して若者のキャリア支援にも尽力している。このように長年にわたり青少年を対象とした多様な交流活動を通して日韓両国の相互理解・友好親善並びに人材育成の促進に貢献している。



グナワン・モハマド（詩人、作家、画家）【インドネシア】

グナワン・モハマド氏は、同時代のアジアにおける知的巨人の一人であり、ジャーナリストとして、市民活動家として、そして詩人や劇作家として、きわめて多面的な才能を放つインドネシアを代表する知識人である。1971年に週刊誌『テンポ』を発刊し、インドネシアにおける自由と民主主義の重要性を訴え続けた。グナワン氏の活動は広く、詩や戯曲、そして美術等の分野でも多彩な能力を発揮し、文筆活動とともにアート全般の普及にも寄与した。日本との関係では、1997年に国際交流基金と国際文化会館が共催のアジア・リーダーシップ・フェローとして来日、それ以来さまざまな分野で関係が拡大した。アジアを中心とするグローバルな視野での日本・インドネシアの知的交流において貢献している。



国際交流基金地球市民賞

日本と海外の市民同士の結びつきや連携を深め、互いの知恵やアイデア、情報を交換し、ともに考える先進的で独自性のある活動に取り組む日本国内の団体を顕彰しています。38回目となる2022年度は3団体が選出されました。授賞式及びレセプションには、高円宮妃殿下のご臨席を賜りました。

●2022年度国際交流基金地球市民賞の受賞団体及び授賞理由

特定非営利活動法人 アレッセ高岡（富山県高岡市）

アレッセ高岡は、海外にルーツのある青少年が、日本とルーツ国の架け橋や地域社会の一員として活躍する人材となるよう、学習支援等の事業を推進している。また、子どもの「支援」という枠組みを超え、地域のすべての人々が互いの違いを理解・尊重し、多様性を真に受けとめる市民になっていくよう、「市民性教育」プログラムを展開。外国人散在地域の課題に向き合い、多文化共生社会の実現を目指し努力を重ね、地域活性化にも貢献している。



特定非営利活動法人 Peace Culture Village（広島県広島市）

Peace Culture Village は、世界中から広島を訪れる人々に対し、平和ガイドや対話プログラムを提供している。原爆投下から77年が過ぎ、多くの団体が語り部の高齢化や組織の維持に悩む中、XR（現実世界と仮想世界を融合する技術の総称）を活用し、若い世代も参画する新たな取り組みを展開。コロナ禍には旅行会社と連携し、オンラインツアーや授業を企画してきた。また若者が有償で活動に参画するしくみを構築。これらの取り組みは、今後の国際交流活動のあり方に新たな可能性を示している。



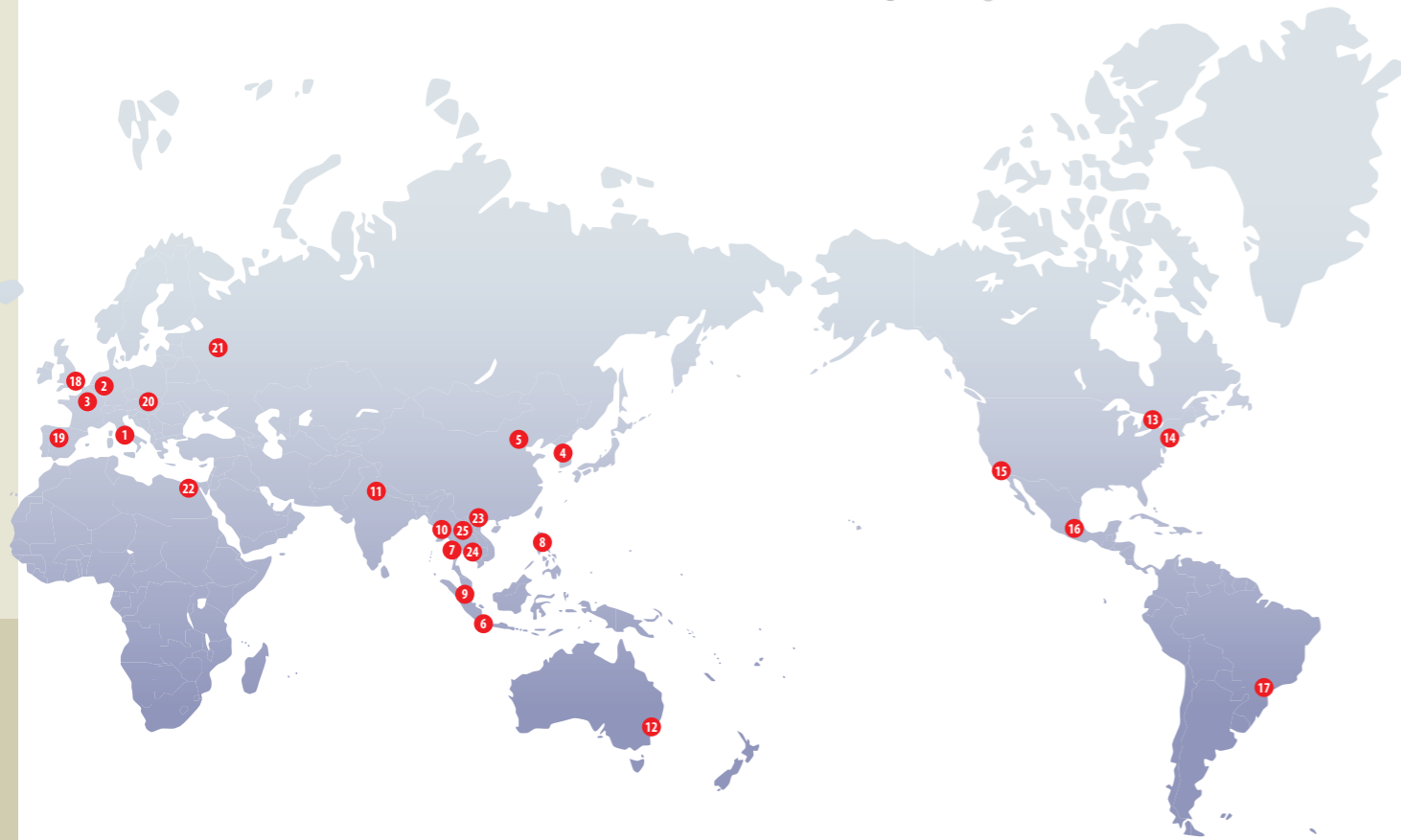
特定非営利活動法人 地域サポートわかさ（沖縄県那覇市）

地域サポートわかさは、那覇市若狭公民館の民営化に際し、管理運営を担うべく近隣住民が協力して設立されたNPO法人であり、住民自治を尊重し、住民の自発的な活動を後押ししている。また、アーティストと協働するユニークなプログラムや細やかな情報発信にも定評がある。「誰一人取り残さない」をモットーに、地縁組織に属さないひとり親世帯や多様な家庭環境にある子どもたち、在留外国人のセーフティネットの役割も果たす。近年はネパール人住民の活動も支援し、住民同士の相互理解に一役買っている。



2022 海外事務所の取り組み

JFは、24か国に25の事務所(2023年3月31日時点)を設け、地域・国別事業方針のもと、各国・地域の状況に合わせて、「文化芸術交流」、「日本語教育」、「日本研究・国際対話」の各分野でさまざまな活動を展開しています。各事務所による活動報告をご紹介します。



1
イタリア
ローマ
日本文化会館

イゾラ・デル・チネマ映画祭日本の夏

2年ぶりに実地開催されたイゾラ・デル・チネマ映画祭にて在イタリア日本国大使館、日本政府観光局ローマ事務所、ローマ日本文化会館が連携し、「四国」をテーマに、高知が舞台のアニメ映画『竜とそばかすの姫』の上映、阿波おどり集団「寶船」によるワークショップ及び公演、書道・浴衣着付体験、四国を中心とした日本観光情報の提供等の日本紹介イベントを催行し、世代を問わず多くの市民のご参加をいただき盛況となりました。



2
ドイツ
ケルン
日本文化会館

日本の「食」特集

2023年1月～2月に日本の「食」特集を実施。20名以上の日本のグラフィックデザイナーによる食にまつわるポスター展「食のグラフィックデザイン」展(DNP文化財団共催)から、食の映画特集とトークイベント、学術講演や日本語教室にいたるまで、当地の日本企業の協力を得ながら文化芸術・日本語教育・国際対話まで分野横断的な八つのイベントを実施し、ドイツでも人気を誇る日本の食文化の幅広い魅力を紹介しました。



3
フランス
パリ
日本文化会館

連続映画上映会「寅さんとの一年」

海外初の映画『男はつらいよ』シリーズ全50作上映会を開催。1年余りにわたり、300席の会場は常にほぼ満席の盛況を呈しました。人情の機微はフランス人にもしっかり伝わり、毎回、歓声や笑い声が聞かれるにぎやかな上映となりました。山田洋次監督からのビデオメッセージもいただき、映写すると客席からは盛大な拍手が!上映に際しては作品の舞台となった地域を紹介するミニイベントも実施、日本の多面的な魅力の紹介に努めました。



©パリ日本文化会館 ©松竹

4
韓国
ソウル
日本文化センター

日本語教師のための教科書分析ワークショップ - 世界の教科書を見てみよう!

2025年に本格施行となる韓国の教育課程改定プロセスにあわせ、主に中学・高校の日本語教師を対象に、世界4か国の中等教育日本語教科書の分析や、その中でオーストラリアの教科書執筆者による講義等を対面形式で行いました。取り組みは韓国における日本語教育関連学会でも報告。また、実際の改定教育課程の日本語教科部分へのコメントや作成途中の日本語教科書原稿への助言を求められ、コンサルティングを行いました。



5
中国
北京
日本文化センター

日中国交正常化50周年関連事業

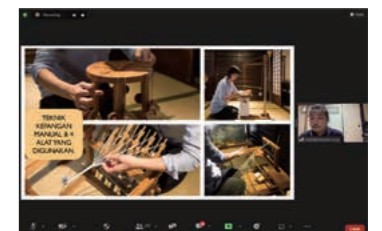
新型コロナウイルス感染症の影響がまだ残る中、日中国交正常化50周年記念事業として、日本現代建築展《Beyond Borders: Architecture of Japan》関連オンラインシンポジウム、インタビュー「中国の日本研究50年」の実施と公開(動画及び文字原稿)、民間商業施設で開催された日中国交正常化50周年記念イベントでの裏千家による茶道体験・デモンストレーション等を実施し、節目の年を契機とした更なる相互理解の増進に力を入れました。



6
インドネシア
ジャカルタ
日本文化センター

オンライン日本文化講座シリーズ

北スマトラ大学、デンパサール・マハサラスワティ大学、ピナ・ヌサントラ大学との共催で、行事食・着物・くみひも・和菓子・日本舞踊の五つのテーマでオンライン講座・ワークショップを開催しました。講師には小宮理実氏(行事食協会代表)、木下紅子氏(木下着物研究所女将)、八田俊氏(昇苑くみひも)、入江麻以氏(和菓子アーティスト)、藤間恵都子氏(日本舞踊藤間流師範)を迎え、のべ約2000人の参加者が集まり、日本文化への理解を深めました。



7
タイ
バンコク
日本文化センター

「醤油づくり」レクチャー&デモンストレーション

香川県の老舗の醤油蔵「かめびし屋」18代目代表取締役の岡田佳織氏をバンコク及びコンケンにお迎えし、「醤油づくり」のレクチャー & デモンストレーションを開催しました。日本の醤油、そしてタイにおけるナンブラーやブラデックは、古くから愛されてきた両国の伝統的な発酵調味料です。日本の醸造技術と近年の新たな取り組みに関し発信するとともに、日タイ両国の食文化に関する知識や経験について、タイの専門家を交えてお話しいただきました。



8
フィリピン
マニラ
日本文化センター

3年ぶりの対面日本語フィエスタ

日本語コミュニティの活性化を目的とする日本語フィエスタを3年ぶりに対面形式で開催しました。主軸プログラムの日本語スピーチコンテストは今回で50回目となり、新たに「教師カテゴリー」を設け、日本語話者の多様性を披露しました。文化紹介事業では和太鼓奏者として世界各地で活躍するレナード衛藤氏を招き、フィリピンの伝統打楽器であるクリンタンの奏者トゥッサ・モンテス氏とのコラボレーション演奏を実施しました。久しぶりの対面実施にもかかわらず会場には300人を超える観客が集まり賑やかな会になりました。



9
マレーシア
クアラルンプール
日本文化センター

東方政策40周年記念
「鈴木このみスペシャルライブ in Malaysia」

東方政策40周年記念事業(共催：在マレーシア日本国大使館)として、鈴木このみ氏(アニソンシンガー)を招へいし、約6万人が参加するマレーシア最大規模のアニメ・漫画の祭典「コミックフェスタ」にてライブパフォーマンスと交流会(2回実施)を開催しました。ライブは2000人規模の会場が満員となる大盛況で、マレーシアの方々に日本のアニメ文化を広く周知することができました。また、公演と交流会の様子を STAGE BEYOND BORDERS でも配信しました。



10
ミャンマー
ヤンゴン
日本文化センター

「日本人形」展と関連イベントの実施

ミャンマーでは初めてとなる本格的な日本人形の展示会と、その関連企画イベントとしてひな人形やひな祭り、フィギュアに関するトークセッションを開催したほか、折り紙によるひな人形制作やミャンマーのいわゆる「オタク」グループが所有する日本のフィギュアの展示会も併せて実施しました。また日本人形に関する理解を深めてもらうため、主として日本語学習者向けの展示会に関するツアー説明会も並行して実施したことで、たくさんの方々に来場いただきました。



11
インド
ニューデリー
日本文化センター

インド北東部で日本文化紹介イベントを実施

日印協力による人的交流促進のニーズに応える形で、インド北東部の3都市(インパール・グワハティ・ティマプール)で文化から日本語まで分野横断的な総合的日本紹介イベント「ジャパン・キャラバン」を開催し、新海誠監督のアニメ映画上映、書道ワークショップ、声優アフレコ体験、浴衣着付け体験等を実施しました。日本文化や日本語に初めて触れる人も多く、6日間でのべ約5000人が参加し、大盛況となりました。



12
オーストラリア
シドニー
日本文化センター

Storymakers in Contemporary Japanese Art 展

2022年7月から2023年1月に「Storymakers in Contemporary Japanese Art」展を実施しました。本展では日豪のキュレーター(村井まや子氏・エミリー・ウェークリング氏)による共同キュレーションにより、ドローイング、ビデオワーク、彫刻等、さまざまなメディアを使った5名の現役日本美術作家による現代美術10作品を展示しました。豪州側キュレーターと作家によるトークイベントを開催したほか、アーティストによるワークショップの展示に関連した上映会も実施しました。



13
カナダ
トロント
日本文化センター

児童文学作家の柏葉幸子さんをトロントへ招待

柏葉幸子氏(児童文学作家)を「トロント国際作家祭(TIFA)」へ招待、TIFAとの共催でカナダ人作家ケネス・オッペル氏との対談イベントを開催しました。関連して、『帰命寺横丁の夏』のオンライン読書会、民話に関する対談、映画『岬のマヨイガ』の上映を行い、大勢の参加者が来場しました。子供たちからの「将来作家になるためのアドバイスは?」との質問には、「物語を作ることを楽しむこと」と回答され、参加者を魅了しました。



14
米国
ニューヨーク
日本文化センター

三船敏郎らのレトロ・スペクティブ上映

俳優・三船敏郎、鈴木清順監督、森田芳光監督のレトロ・スペクティブ上映を実施し、三船と鈴木監督特集は全米各地17か所の映画館や大学を巡回しました。森田監督作品はニューヨーク市にあるリンカーン・センターで10日間に渡って上映され、監督の公私に渡るパートナーであった三沢和子氏も登壇しました。オープニング上映作品の『家族ゲーム』は満席となり、以降、どの上映も盛況を博しました。



15
米国
ロサンゼルス
日本文化センター

三浦しをん著『神去なあなあ』シリーズ英訳本発売記念対談

近年、米国では日本人作家が大きな注目を集めており、英訳本が次々と出版されています。当センターでは三浦しをん氏の『神去なあなあ』シリーズの英訳本出版に合わせて三浦氏と翻訳家を招き、作品の背景となる日本の林業や信仰、翻訳プロセス等さまざまなテーマについて対談を行いました。動画は舞台となった三重県美杉村(現・津市)の映像や現地では林業に携わる方のインタビューが加わり、読者の興味を喚起する内容となっています。




16
メキシコ
メキシコ
日本文化センター

日本クラシック映画(1935-40年代)特集上映


国立シネマテークにて1935-40年代トーキー映画作品の特集を実施し、山中貞雄監督による『丹下左膳余話百萬両の壺』をはじめとした計9作品を約2週間ずつ、計2都市で上映しました。実力ある監督がトーキー映画初期に手掛けた作品で、動員数3695人を記録。チケットが完売する回もありました。客層も幅広く若年層の参加が目立ち、主に国立シネマテークと共同で日本クラシック映画上映を20年以上行ってきたメキシコでの、日本映画の根付きを感じられるイベントとなりました。



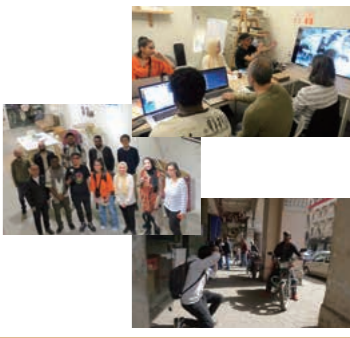
17
ブラジル

サンパウロ
日本文化センター

VR映像(音楽と星)が織りなす日伯交流
 ブラジルでは、日系団体等が主催する日本祭り等のイベントが各地で開催されており、日本の伝統芸能やポップカルチャーが体験できる一大イベントとして認知されています。こうした中、新しいコンテンツを届けたいとの主催者側の熱い要望に応え、日伯友好・音楽・星をテーマとしたオリジナル VR 映像をブース出展し、多くの方々(9都市のべ7435人)に視聴いただき好評を博したほか、主催者間のネットワークを通じて2023年度も続々とオファーが届いています。



22
エジプト

カイロ
日本文化センター

写真で交差する日本とエジプトの視点
 コロナ禍で中断していたアーティストの招へいを再開し、有元伸也氏(写真家)を講師として招いたレクチャーとワークショップを実施しました。エジプトの写真家団体との共催でエジプトの写真家とともにカイロの街に出て撮影し、講評する等、写真を通してエジプトと日本の視点が交差する交流が生まれました。有元氏と参加者が撮影した写真はカイロ日本文化センター図書館で展示を行い、多くの来館者が作品を楽しみました。



18
英国

ロンドン
日本文化センター

第18回大学生のための日本語スピーチコンテスト
 今回で18回目となった毎年恒例の「大学生のための日本語スピーチコンテスト」。パンデミック下でのオンライン開催を経て、3年ぶりの会場開催となりました。コロナ禍でも一生懸命日本語の勉強を続けてきた学生たちから多くの応募があり、ファイナリストに選ばれた学生たちが当日100人を超える観衆を前にこれまでの学習成果を披露しました。日本語はもちろん内容もレベルが高く、観客はその内容に聞き入っていました。



23
ベトナム

ベトナム
日本文化交流センター

『まるごと』ベトナム語版全レベル出版記念報告会
 『まるごと 日本のことばと文化』ベトナム語版が全レベルにおいて出版されたことを記念する報告会をオンラインで開催しました。ベトナムにおける同書の使用状況の報告、授業の進め方やサブ教材についての情報提供及び使用機関による実践報告等を通し、実施例や参考情報を教師や教育機関の間で共有したり、『まるごと』に関する素朴な疑問等を解決できる場を提供しました。



19
スペイン

マドリード
日本文化センター

スペイン初! 中等教育機関で日本語教育スタート
 2021年、カタルーニャ州の Instituto de Alexandre Deulofeu 中高等学校で、スペインで初めて、中等義務教育課程の選択科目として日本語教育が導入されました。以降、在バルセロナ日本国総領事、市長、教育省担当者らの出席のもと、同学校で和太鼓ワークショップと記念式典を開催する等、さまざまなサポート活動をしてきました。それが功を奏したのか、2023年度秋からは日本語コースを更に10校で新設することを教育省が決定し、スペインは中等教育の現場でも日本語が大きな広がりを見せています。



24
カンボジア

プノンペン
連絡事務所

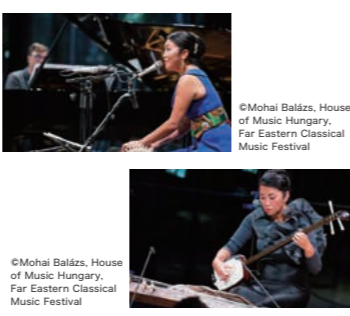
地方における日本文化発信
 美術や映像の分野において、コロナ禍に実施できなかった地方での日本文化発信を6地域で実施しました。その中でも、日本人画家が経営するアートスクールと共同で制作した美術教育教材を活用して現地の小学校において美術教室を開催し、約250名の生徒が参加しました。公教育機関での美術教育普及が遅れているカンボジアにおいて、当事務所のフェイスブックの活動報告に約2000件のリアクションがある等、非常に反響が大きい事業となりました。



20
ハンガリー

ブダペスト
日本文化センター

箏曲・三弦公演(金子純恵氏)
 藤本壮介氏(建築家)が手掛け2022年にオープンしたばかりの「ハンガリー音楽の家」で、2022年9月に開催された第1回「Far Eastern Classical Music Festival」のプログラム一つとして、金子純恵氏(箏曲・三味線奏者)を招へいし、二日間にわたり公演を開催しました。公演ではノルバート・カエル氏(ハンガリー人ジャズピアニスト)、黒田鈴尊氏(尺八奏者)とそれぞれ共演し、流麗な音楽で500人を超える観客に日本の伝統楽器の魅力を伝えることができました。



25
ラオス

ピエンチャン
連絡事務所

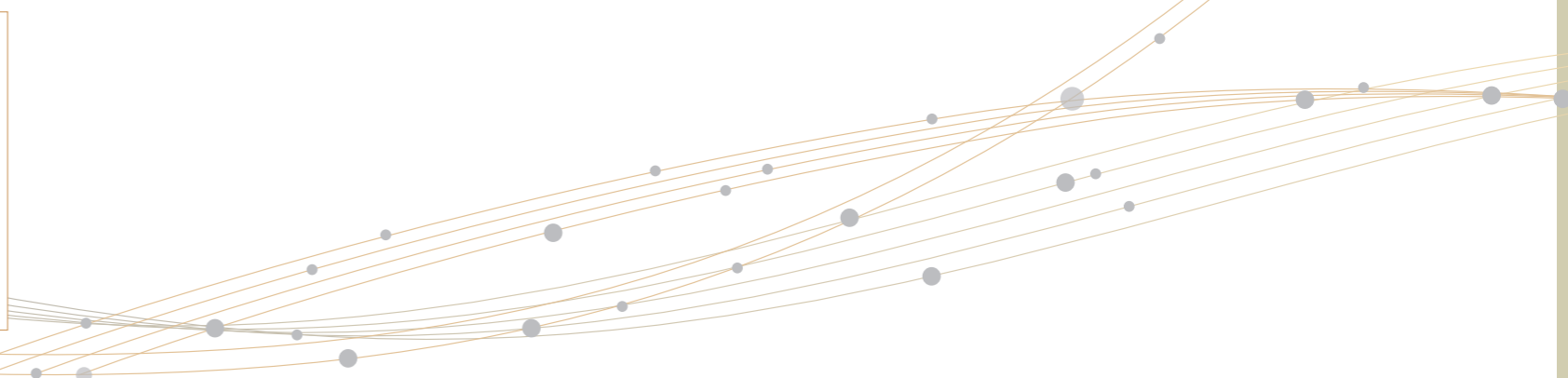
DigiCon6 ASIA - ラオスコンテスト
 優れたコンテンツクリエイターの発掘を目的に、株式会社TBSホールディングスがアジア16か国・地域を対象に行う「第24回DigiCon6 ASIA」のラオスにおける国内予選を実施し、上位3作品を本選に送付しました。11月19日に東京で行われた本選には、ラオスの上位2名のクリエイターが招待され、そのうちシリコパー・ケオサワン氏が Rising Star Award を受賞。この分野の国際的な催しで、ラオス人クリエイターが受賞する初めての快挙となりました。



21
ロシア

モスクワ
日本文化センター

日本語教師の日
 JFモスクワ日本文化センターが主催する日本語教師を対象としたオンラインセミナーを実施しました。日本語上級専門家による講義や参加した日本語教師と意見交換を通じて、スキルアップや課題解決を目指しています。2022年度に計10回実施し、24都市からのべ98名が参加しました。セミナー終了後、参加した日本語教師には「参加認定書」を付与しました。



2022年度事業実績 ◆ 文化芸術交流

1 主催公演

- 日中国交正常化50周年事業 ミュージカル『フィスト・オブ・ノーススター～北斗の拳～』公演(中国・オンライン配信)
- 『桜の園』公演(令和3年度舞台芸術国際共同制作作品)(フランス・ジュヌヴィリエ、モンペリエ)
- 「第59回ヴェネチア・ビエンナーレ 国際美術展 日本館展示」特別企画『DUMB TYPE | AUDIO VISUAL LIVE 2022: remix』(イタリア・ヴェネチア)

2 舞台芸術国際共同制作

- 鳥の劇場 x シアター・プレーキング・スルー・バリアーズ(TBTB) (米国) 『バックさんの魔法/美のことなり』(成果発表：鳥取)
- アピチャッポン・ウィーラセタクン(タイ) x 坂本龍一『太陽との対話(VR)』(成果発表：名古屋)
- 志賀理江子、メルツバウ x パラージ・パンティ (ハンガリー)、リシャール・ピナス(フランス)『Bipolar』(成果発表：京都)
- 和田ながら x シャンカル・ヴェンカデーシュワラン(インド) 『「さようなら、ご成功を祈ります」(中略) 演説『カーストの絶滅』への応答』(成果発表：京都)
- カンパニーデラシネラ x リー・レンシン(マレーシア)、リウ・ジュイチュー(台湾)、チョン・ヨンド(韓国)『Hourglass』(成果発表：東京)

3 日本祭り開催支援

- 全米桜祭りオープニング公演/里アンナ x 佐々木俊之、ミカ・ストルツマン、Travis Japan 公演(米国・ワシントン DC)
- 日・イスラエル外交関係樹立70周年記念公演/“Boom Pam & The Spirit of Tohoku” (イスラエル・エルサレム、テルアビブ)
- 日印国交樹立70周年記念/ JAPAN FILM & MUSIC FESTIVAL ～The World of RADWIMPS and Makoto Shinkai～ (映像上映)(インド・デリー、ムンバイ、チェンナイ、ベンガルール)
- 東方政策40周年記念公演 / 「鈴木このみスペシャルライブ in Malaysia」(マレーシア・クアラルンプール)

4 海外派遣助成

- 助成実績：28 各国124都市、35件

5 国際展

- 第59回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示「ダムタイプ | 2022」(イタリア・ヴェネチア)
- 第59回ヴェネチア・ビエンナーレ美術展帰国展「ダムタイプ | 2022: remap」(日本・東京)

6 企画展

- 日中国交正常化50周年事業 日本現代建築展 〈Beyond Borders: Architectures of Japan〉(中国・深セン)

7 国際交流基金巡回展

- 16 セット、47 各国・地域72都市

8 海外展助成

- 16 各国・地域23都市、24件

9 欧米ミュージアム基盤整備支援

- 3 各国6都市、6館

10 翻訳出版助成

- 21 各国・地域、32件

11 専門家交流

- 米国日本庭園専門家グループ招へい(1 各国、14 人)
- 石橋財団・国際交流基金 現代美術キュレーター等交流事業(2 各国、9 人)
- 石橋財団・国際交流基金 日本美術リサーチフェロシシップ(20 各国、29 人)

12 情報発信

- 翻訳推薦図書・児童図書リスト「Worth Sharing」、 「Lifelong Favorites」(ウェブサイト・冊子)
- 「日本文学翻訳作品データベース」
- 「More than Worth Sharing」翻訳家座談会動画シリーズ、 「Translator Spotlight」日本文学翻訳家インタビュー動画シリーズ
- 現代作家往復書簡シリーズ「会えない時代の往復書簡」(特設ウェブサイト・雑誌連載)
- フランクフルト・ブックフェア 2022 における日本の図書紹介(ドイツ・フランクフルト)
- ポローニャ国際児童図書展2023 における日本の児童書紹介(イタリア・ポローニャ)
- 第31回アブダビ国際図書展における日本文化紹介事業(UAE・アブダビ)
- 第16回日本国際漫画賞受賞者招へい(4 各国、4 人)
- 日仏高校生交流アプリ「Nakamiti」
- 「パフォーミング・アーツ・ネットワーク・ジャパン(PANJ)」(舞台芸術ウェブサイト)
- 「STAGE BEYOND BORDERS」(舞台公演オンライン配信プロジェクト)
- 戯曲翻訳出版(3 各国、3 件)
- 「Doors to Arts of Japan」(「日本の芸術と文化」、「美術館への誘い」、 「日本の美術作家シリーズ」)(映像配信ポータルサイト)
- 「ヴェネチア・ビエンナーレ日本館展示」(特設ウェブサイト)
- 『国際交流基金展覧会史1972-2022』・『The Japan Foundation Exhibitions 1972-2022』刊行
- 『ヴェネチア・ビエンナーレと日本』・『Japan at the Venice Biennale 1952-2022』刊行
- 「日本映画データベース(JFDB)」

13 日本映画上映

- 主催事業：69 各国・地域で日本映画祭・上映会を実施
- 助成事業：14 各国・地域で 19 件の日本映画上映事業に助成
- ミニシアター特集配信企画「JFF+ INDEPENDENT CINEMA」
- 日本映画発信ウェブサイト「JFF+」

14 テレビ番組紹介

- 93 各国・地域で 714 番組

2022年度事業実績 ◆ 海外における日本語教育

1 「JF 日本語教育スタンダード」の活用推進

- 「JF 日本語教育スタンダード」サイト年間アクセス数：約23万5000件
- 「みんなの Can-do サイト」年間アクセス数：約28万3000件
- 『まるごと 日本のことばと文化』海外出版 2 各国3 レベル刊行
- 『いるどり 生活の日本語』文法ワークシート等コンテンツ拡充
- 『ひきだすにほんご Activate Your Japanese!』放送・配信(共同制作：NHK エデュケーショナル)
- 『ひきだすにほんご Activate Your Japanese! コンテンツライブラリー』サイト開設
- NHK ワールド JAPAN 『Easy Japanese (やさしい日本語)』放送・配信(監修)
- 国内外の各種オンラインセミナー・研修会等での情報提供

2 インターネットを活用した教育ツール

- 「JF にほんご e ラーニング みなと」年間受講者数：約14万3000人
- 「いるどり日本語オンラインコース」年間受講者数：約3万2000人
- 「みんなの教材サイト」年間アクセス数：約135万件
- 「まるごと 日本のことばと文化」(サイト)年間アクセス数：約549万件
- 「まるごと+ (まるごとプラス)」年間アクセス数：約756万件
- 「いるどり 生活の日本語」年間アクセス数：約298万件
- 「ひろがる もっといるんな日本と日本語」年間アクセス数：約51万件
- 「アニメ・マンガの日本語」年間アクセス数：約137万件
- 「NIHONGO e な(いいな)」年間アクセス数：約87万件
- 「日本語でケアナビ」年間アクセス数：約66万件
- 「『エリンが挑戦! にほんごできます。』コンテンツライブラリー」年間アクセス数：約158万件
- 「エリンと挑戦! にほんごテスト」(初学者向けアプリ)年間ダウンロード数：約9400件
- HIRAGANA Memory Hint (文字学習アプリ)年間ダウンロード数：約13万件
- KATAKANA Memory Hint (文字学習アプリ)年間ダウンロード数：約7万件
- KANJI Memory Hint 1,2&3 (文字学習アプリ)年間ダウンロード数：約7万件
- NHK ワールド JAPAN 「やさしい日本語プラス ポップカルチャーの日本語」制作監修

3 日本語能力評価のための試験

- 日本語能力試験(JLPT)第1回試験(7月3日)：海外52 各国・地域、141 都市、受験者数21万5352人
国内*47 都道府県、受験者数14万1153人
- 第2回試験(12月4日)：海外81 各国・地域、193 都市、受験者数24万1299人
国内*47 都道府県、受験者数19万150人
- *日本国内での試験は、共催者である(公財)日本国際教育支援協会が実施
- 国際交流基金日本語基礎テスト(JFT-Basic)海外11 各国、19 都市、国内47 都道府県
受験者数4万6632人

4 日本語事業に関する調査、情報提供

- 「2021 年度 海外日本語教育機関調査」報告書・各種集計表等の公開
- 『国際交流基金日本語教育紀要』(年1 回の発行)
- 「日本語教育通信」(月1 回の更新)年間アクセス数：約42 万件
- 「日本語教育国・地域別情報」サイトの運営

5 海外事務所における日本語事業及び「JF にほんごネットワーク」(さくらネットワーク)

- 国際交流基金海外事務所及び日本人材開発センター日本語事業部門(日本センター)事業：28 各国、289 件
- 「さくらネットワーク」：102 各国・地域、357 機関
海外日本語教育機関支援(助成)：63 各国・地域、348 件

6 日本語専門家等の海外派遣

- 日本語専門家等派遣
● 日本語上級専門家：21 各国、30 ポスト
- 日本語専門家：37 各国、76 ポスト
- 日本語指導助手：11 各国、12 ポスト
- 米国若手日本語教員(J-LEAP)：1 各国、12 ポスト
- 生活日本語コーディネーター：5 各国、11 ポスト

7 日本語パートナーズ派遣事業

- 日本語パートナーズ：9 各国・地域、279 人
- 埼玉県との共催セミナー「海外滞在型事業への参加経験の活かし方ー地域に根差した活動につなげるためにー」40 人

8 海外の教師を対象とした招へい研修

- 海外日本語教師研修
- 基礎(訪日)：30 各国、44 人
- 教授法総合(訪日)：22 各国、30 人
- 大韓民国中等教育日本語教師研修(訪日)：1 各国、23 人
- 中国中等学校日本語教師研修(訪日)：1 各国、9 人
- フィリピン中等教育日本語教師研修(訪日)：1 各国、21 人
- テーマ別：21 各国・地域、75 人
- テーマ別(JF 日本語教育スタンダード)(オンライン)：5 各国・地域、8 人
- テーマ別(会話の教え方)(オンライン)：15 各国・地域、20 人
- テーマ別(文法の教え方)(オンライン)：9 各国・地域、11 人
- テーマ別(日本語教育と文化)(オンライン)：7 各国・地域、10 人
- テーマ別(作文の教え方)(オンライン)：12 各国・地域、16 人
- テーマ別(読解の教え方)(オンライン)：8 各国・地域、10 人
- 日本語(訪日)：19 各国、40 人
- 特定技能制度による来日希望者のための日本語教授法研修：8 各国、87 人
- 第1回(訪日)：7 各国、24 人
- 第2回(訪日)：6 各国、24 人
- 第3回(訪日)：7 各国、23 人
- オンライン：5 各国、16 人
- 大阪府クイーンズランド州日本語教師研修：1 各国、5 人
- タイ中等教育教員日本語教授法訪日集中研修：1 各国、30 人
- 「いるどり日本語オンラインコース」活用オンラインセミナー(2023年1月)(オンライン):10 各国、65 人

9 海外の学習者等を対象とした招へい研修

- 専門日本語研修
- 2021 年度(前年度からの継続) 外交官・公務員研修(オンライン)：29 各国、33 人
- 2022 年度 外交官・公務員研修：25 各国、28 人
文化・学術専門家研修5 か月コース：7 各国、8 人
文化・学術専門家研修2 か月コース：7 各国、10 人
文化・学術専門家特別訪日研修：8 各国、10 人
- 日本語学習者訪日研修
- 李秀賢氏記念韓国青少年訪日研修：1 各国、20 人

10 経済連携協定(EPA)関連日本語教育研修

- インドネシア及びフィリピンにおいて、看護師・介護福祉士候補者を対象に、日本語予備教育事業を6 か月間実施
- EPA 研修：2 各国、4 件
2021 年度(継続) インドネシア：289 人 フィリピン：232 人
2022 年度(新規) インドネシア：315 人 フィリピン：256 人

11 受託研修

- 教師研修
博報堂教育財団 海外教師日本研修プログラム：9 各国、10 人
- 学習者研修
- (公財)大阪ガス国際交流財団インドネシア人大学生日本語研修：1 各国、4 人
- グリフィス大学日本語研修：4 各国、18 人
- 大阪大学日本語専修短期研修型プログラム：3 各国、19 人
- 2022 年度ニュージーランド日本語教師オンラインイマージョンプログラム(オンライン)：1 各国、10 人

12 その他の研修

- 大阪府 JET 青年来日時研修
第1 回：4 各国、22 人
第2 回：8 各国、36 人
- 全国 JET 日本語教授法研修(訪日) 15 各国、30 人
- かめのり財団共催東南アジア7 各国日本語教育関係者訪日プログラム：7 各国、24 人

13 各センターの図書館

- 日本語国際センター 来館者数：6814 人(臨時休館中も予約図書貸出サービスを実施)
- 関西国際センター 来館者数：9195 人

民間からの資金協力

国際交流基金は、企業、団体、個人等、広く民間からの資金協力による支援を受けて国際文化交流事業を実施しています。ここでは、2022年度の民間からの資金協力について寄附金制度を中心に紹介するとともに、主に寄附金制度を通じて資金協力をいただいた方々や、その協力による支援を受けた事業を紹介します。

1. 資金協力の種類

(1) 一般寄附金

国際交流基金による国際文化交流事業の経費の財源として活用します。

1. 一般寄附金制度

企業、団体、個人より、時期、金額とも任意で受け入れる寄附金です。2022年度に寄附金をいただいた方々は、次ページの「事業費への寄附者」、「民間出えん金寄附者」のとおりです。

●事業費への寄附

寄附金を受け入れた年度の事業経費として活用します。寄附者の希望により、実施事業の中から、寄附金を充当する事業を指定することも可能です。

●基金(ファンド)への寄附(民間出えん金)

寄附金を基金(ファンド)に組み入れ、その運用利息を毎年度の事業費として恒久的に活用します。過去に受け入れた民間出えん金による2022年度の事業実施状況は、次ページの「民間出えん金による支援事業」のとおりです。

2. 法人会員制度(賛助会)

企業、団体等の法人より年会費として一定額の寄附金を受け入れ、受け入れた年度の事業経費として活用します。1口10万円で、普通会员(1～4口)と特別会員(5口以上)があります。会員には、催しの案内、「国際交流基金年報」の送付等、各種特典を提供しています。2022年度に支援をいただいた会員は次ページの「賛助会会員」のとおりです。

(2) 特定寄附金

国内の法人や個人が国内外の国際文化交流事業を支援する場合に、特定公益増進法人である国際交流基金が、その支援資金を寄附金として受け入れ、対象事業への助成金として交付する制度です。本制度を利用することで、法人や個人は寄附金に対する税制上の優遇措置を受けることができます。

対象となる事業は、国際文化交流を目的とする人物交流、海外における日本研究や日本語教育、国際文化交流を目的とする公演・展示・セミナー等の催し等です。特定寄附金の受入れは、外部専門家で構成される審査委員会への諮問を経て決定します。2022年度の支援事業は次ページの「特定寄附金による支援事業」のとおりです。

(3) その他

上記の寄附金のほか、協賛金、助成金等、さまざまな形で民間からの資金協力による支援をいただいております。2022年度の主な支援の例は、次ページの「寄附金以外の主な支援例」のとおりです。

2. 寄附金に対する税制上の優遇措置

国際交流基金は法人税法施行令第77条及び所得税法施行令第217条により「公益の増進に著しく寄与する法人」(特定公益増進法人)に指定されており、上記の資金協力のうち、国内での寄附金については税制上の優遇措置の対象となります。

(1) 法人の場合

特定公益増進法人に対する寄附金の合計額、または、特別損金算入限度額のいずれか少ない金額が損金に算入されます。

(注1) 特定公益増進法人に対する寄附金のうち、損金に算入されなかった金額(特別損金算入限度額を超える部分の金額)は、通常の寄附金の額に含めます。寄附金の損金算入限度額は次の算式によります。

●特定公益増進法人に対する寄附金の損金算入限度額

(特別損金算入限度額)
(資本金等の額 × 当期の月数 / 12 × 0.375% + 所得の金額 × 6.25%) × 1/2

●通常の寄附金の損金算入限度額

(資本金等の額 × 当期の月数 / 12 × 0.25% + 所得の金額 × 2.5%) × 1/4

(2) 個人の場合

所得の40%を上限として、寄附金の合計額から2,000円を差し引いた金額が所得控除の対象となります。相続財産からの寄附についても、税制上の優遇措置があります。

3. 2022年度寄附金額実績

	件数	金額
一般寄附金	38件	14,695,000円
賛助会	27件	4,900,000円
事業費への寄附	9件	9,783,000円
民間出えん金	2件	12,000円
特定寄附金	12件	243,370,785円 ^(注2)

(注2) うち、194,673,467円(2021年度より繰り越した特定寄附金9,393,966円含む)を10事業(次ページ「特定寄附金による支援事業」参照)に対する助成金として交付しました。残額(58,091,284円)は、4件の事業に対する助成金として2023年度に交付予定です。

(注3) 1972年の国際交流基金設立以来2022年度末までの累計で、一般寄附金として約31億1,026万円、特定寄附金として約720億6,508万円を受け入れています。

(注4) 寄附金以外の民間からの資金協力として、2022年度に総額約7,500万円の支援(協賛金、助成金等)をいただいております。

2022年度の寄附金等による支援者や支援事業一覧

事業費への寄附者(()内は寄附対象事業、順不同)

- (株)大西熱学、三協立山(株)、Amane Associate Japan(株)、大光電機(株)、マザーハウス(株)、ほか2社(第18回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館展示)
- ジェイシーテクノロジー(株)、久米真氏(事業費全般)

民間出えん金寄附者

- 古澤英樹氏ほか個人1人

民間出えん金による支援事業(順不同)

(寄附者の意向に基づき特別事業を設定し、事業名に寄附者の名を付する冠寄附の例)

●高砂熱学工業・日本研究フェローシップ

(寄附者は高砂熱学工業(株))

●渡辺健基金・日本研究フェローシップ

(寄附者は渡辺行信氏、米国研修中に事故で逝去された元外務省職員渡辺健氏のご遺族)

賛助会会員(2022年度末現在、50音順)

(1) 特別会員

SMBC 日興証券(株) / 松竹(株) / (株)みずほ銀行

(2) 普通会员

(公財)あすか財団 / (一財)池坊華道会 / 出光興産(株) / (一財)NHK インターナショナル / カトーレック(株) / (株)講談社 / (公財)講道館 / (一財)今日庵 / (株)資生堂 / (一財)少林寺拳法連盟 / (一財)全日本剣道連盟 / (株)第一成和事務所 / 大和証券(株) / 東京ビジネスサービス(株) / (一社)日本映画製作者連盟 / (株)日本折紙協会 / (一財)日本国際協力センター / 野村證券(株) / (株)日立製作所 / (株)凡人社 / (株)三井住友銀行 / 三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券(株) / 森ビル(株)ほか法人1社

特定寄附金による支援事業(()内は事業実施国、順不同)

アジア女子大学奨学金プログラム(バングラデシュ)

CWAJ 女性のための国際文化交流奨学金制度(日本、米国)

三笠宮記念財団支援事業(トルコ)

日米交流財団フェローシッププログラム(米国)

ミシガン大学ロースクール・フェローシップ・ファンド(米国)

LSH アジア奨学金(日本)

バルカン室内管弦楽団ローマ公演(イタリア)

「ミュージック・フロム・シャパン 48周年記念音楽祭」アーティスト・レジデンス(米国)

第4回とやま世界こども舞台芸術祭(日本)

MOGU 絵本プロジェクト(ベトナム)

寄附金以外の主な支援例(順不同)

●パリ日本文化会館・日本友の会(会員数63社、2022年度末現在)によるパリ日本文化会館への事業実施支援

●(公財)石橋財団(日本美術リサーチフェローシップ事業への寄附助成、現代美術キュレータ等交流事業への寄附助成、ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展における日本館展示への寄附助成)

●(一社)尚友倶楽部(タマサート大学大学院日本研究科博士課程訪日研修、ほか)

●(公財)かめのり財団(東南アジア7か国日本語教育関係者訪日プログラム共催分担金、初中等日本語教育教科書等作成・整備事業支援金、「にほんご人フォーラム」共催分担金)

●(一財)井上靖記念文化財団(井上靖作品翻訳・出版助成事業への共催分担金)

財務諸表

令和4年度 決算報告書 (2022年4月1日～2023年3月31日)

(単位：円)

区別	文化芸術交流事業費				海外日本語事業費				海外日本研究・国際対話事業費			
	予算額	決算額	差額	備考	予算額	決算額	差額	備考	予算額	決算額	差額	備考
▼収入												
運営費交付金	2,075,822,000	2,075,822,000	0		5,804,591,000	5,804,591,000	0		1,689,763,000	1,689,763,000	0	
運用収入	0	100,210	100,210		0	5,917,120	5,917,120		597,703,000	702,923,318	105,220,318	※4
寄附金収入	29,200,000	9,347,317	△19,852,683		0	2,793,939	2,793,939		0	623,351	623,351	
受託収入	0	0	0		2,507,000	25,580,703	23,073,703		0	0	0	
アジア文化交流強化基金取崩収入	96,052,000	50,233,763	△45,818,237		989,751,000	1,024,811,590	35,060,590		0	0	0	
その他収入	0	64,197,918	64,197,918		1,118,903,000	1,004,478,004	△114,424,996	※2	64,343,000	94,573,277	30,230,277	
前中期目標期間繰越積立金取崩収入	0	45,293,936	45,293,936		0	103,384,841	103,384,841	※3	0	347,086,086	347,086,086	※3
計	2,201,074,000	2,244,995,144	43,921,144		7,915,752,000	7,971,557,197	55,805,197		2,351,809,000	2,834,969,032	483,160,032	
▼支出												
業務経費	2,266,194,000	1,589,363,155	676,830,845	※1	7,915,752,000	6,713,412,174	1,202,339,826	※1	2,360,477,000	1,833,431,076	527,045,924	※1
一般管理費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
うち人件費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
物件費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
予備費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
計	2,266,194,000	1,589,363,155	676,830,845		7,915,752,000	6,713,412,174	1,202,339,826		2,360,477,000	1,833,431,076	527,045,924	

区別	調査研究・情報提供等事業費				在外事業費				文化交流施設等協力事業費			
	予算額	決算額	差額	備考	予算額	決算額	差額	備考	予算額	決算額	差額	備考
▼収入												
運営費交付金	593,211,000	593,211,000	0		3,688,609,000	3,688,609,000	0		0	0	0	
運用収入	7,950,000	2,011,592	△5,938,408		75,515,000	52,648,809	△22,866,191		0	243,968	243,968	
寄附金収入	6,834,000	949,830	△5,884,170		0	853,367	853,367		439,474,000	243,485,981	△195,988,019	※6
受託収入	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
アジア文化交流強化基金取崩収入	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
その他収入	55,773,000	31,790	△55,741,210		144,320,000	62,045,504	△82,274,496		9,551,000	0	△9,551,000	
前中期目標期間繰越積立金取崩収入	0	0	0		0	6,524,600	6,524,600		0	0	0	
計	663,768,000	596,204,212	△67,563,788		3,908,444,000	3,810,681,280	△97,762,720		449,025,000	243,729,949	△205,295,051	
▼支出												
業務経費	663,768,000	591,936,687	71,831,313		3,908,444,000	4,237,142,834	△328,698,834	※5	449,025,000	204,307,495	244,717,505	※6
一般管理費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
うち人件費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
物件費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
予備費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
計	663,768,000	591,936,687	71,831,313		3,908,444,000	4,237,142,834	△328,698,834		449,025,000	204,307,495	244,717,505	

区別	法人共通				合計			
	予算額	決算額	差額	備考	予算額	決算額	差額	備考
▼収入								
運営費交付金	1,975,867,000	1,975,867,000	0		15,827,863,000	15,827,863,000	0	
運用収入	0	0	0		681,168,000	763,845,017	82,677,017	
寄附金収入	0	0	0		475,508,000	258,053,785	△217,454,215	
受託収入	0	0	0		2,507,000	25,580,703	23,073,703	
アジア文化交流強化基金取崩収入	0	0	0		1,085,803,000	1,075,045,353	△10,757,647	
その他収入	9,191,000	3,329,523	△5,861,477		1,402,081,000	1,228,656,016	△173,424,984	
前中期目標期間繰越積立金取崩収入	0	21,011,986	21,011,986		0	523,301,449	523,301,449	
計	1,985,058,000	2,000,208,509	15,150,509		19,474,930,000	19,702,345,323	227,415,323	
▼支出								
業務経費	0	0	0		17,563,660,000	15,169,593,421	2,394,066,579	
一般管理費	1,985,058,000	1,950,682,725	34,375,275		1,985,058,000	1,950,682,725	34,375,275	
うち人件費	589,005,000	614,630,616	△25,625,616		589,005,000	614,630,616	△25,625,616	
物件費	1,296,053,000	1,336,052,109	△39,999,109		1,296,053,000	1,336,052,109	△39,999,109	
予備費	100,000,000	0	100,000,000		100,000,000	0	100,000,000	
計	1,985,058,000	1,950,682,725	34,375,275		19,548,718,000	17,120,276,146	2,428,441,854	

- ※1 一部の事業実施期間が、翌年度に延期されたため等
- ※2 日本語能力試験 (JLPT) の一部中止等による収入減等
- ※3 令和4年度中に前中期目標期間の積立金の繰越が承認されたため
- ※4 資金運用の収入増
- ※5 一部事業の拡大による支出増等
- ※6 特定寄附金の受け入れ、及びその見合い支出減等

貸借対照表 (2023年3月31日)

(単位：円)

資産の部			
I 流動資産	現金及び預金	7,716,396,032	
	有価証券	4,499,732,327	
	前払金	42,828,126	
	前払費用	120,809,195	
	未収収益	141,268,676	
	未収金	468,434,603	
	買与引当金見返 (注)	268,774,081	
	その他の流動資産	174,652	
	流動資産合計		13,258,417,692
	II 固定資産	1 有形固定資産	
建物		13,912,876,325	
減価償却累計額		△7,484,983,326	
減損損失累計額		△298,665	6,427,594,334
構築物		312,740,798	
減価償却累計額		△308,395,359	4,345,439
機械装置		57,719,952	
減価償却累計額		△37,975,949	19,744,003
車両運搬具		122,479,746	
減価償却累計額		△93,757,495	28,722,251
工具器具備品		1,893,995,746	
減価償却累計額		△1,279,397,196	614,598,550
美術品		552,983,223	
減価償却累計額		△48,256,306	504,726,917
土地		63,515,000	
減損損失累計額		△981,549	62,533,451
建設仮勘定			34,024,990
有形固定資産合計			7,696,289,935
2 無形固定資産			
ソフトウェア			480,196,132
電話加入権		428,000	
無形固定資産合計		480,624,132	
3 投資その他の資産			
投資有価証券		58,426,120,006	
長期預金		1,700,000,000	
敷金保証金		421,571,595	
退職給付引当金見返 (注)		2,417,428,392	
投資その他の資産合計		62,965,119,993	
固定資産合計		71,142,034,060	
資産合計		84,400,451,752	
負債の部			
I 流動負債	運営費交付金債務 (注)	2,452,360,398	
	預り補助金等 (注)	741,506,778	
	預り寄附金 (注)	105,934,047	
	未払金	1,225,012,487	
	未払消費税	4,936,517	
	前受金	31,350,946	
	預り金	27,524,015	
	前受収益	6,407,009	
	リース債務	17,247,273	
	為替予約	10,259,058	
引当金			
買与引当金	308,744,658	308,744,658	
流動負債合計		4,931,283,186	
II 固定負債	資産見返負債 (注)		
	資産見返運営費交付金	1,716,630,702	
	資産見返補助金等	532,059	
	資産見返寄附金	546,808	
	建設仮勘定見返運営費交付金	34,024,990	1,751,734,559
	長期リース債務		20,380,221
	引当金		
	退職給付引当金	2,417,428,392	2,417,428,392
	資産除去債務		93,091,343
	固定負債合計		4,282,634,515
負債合計		9,213,917,701	
純資産の部			
I 資本金	政府出資金	77,729,095,177	
	資本金合計		77,729,095,177
II 資本剰余金	資本剰余金	560,900,111	
	その他行政コスト累計額 (注)	△8,116,471,915	
	減価償却相当累計額 (△)	△7,154,973,413	
	減損損失相当累計額 (△)	△1,406,214	
	利息費用相当累計額 (△)	△7,182,684	
	除売却差額相当累計額 (△)	△952,909,604	
民間出えん金 (注)	909,052,787		
資本剰余金合計		△6,646,519,017	
III 利益剰余金	前中期目標期間繰越積立金 (注)	1,851,531,972	
	当期未処分利益	2,262,684,977	
	(うち当期総利益)	2,262,684,977)	
利益剰余金合計		4,114,216,949	
IV 評価・換算差額等	繰延ヘッジ損益	△10,259,058	
	評価・換算差額等合計		△10,259,058
純資産合計		75,186,534,051	
負債純資産合計		84,400,451,752	

財務諸表

損益計算書 (2022年4月1日～2023年3月31日) (単位：円)

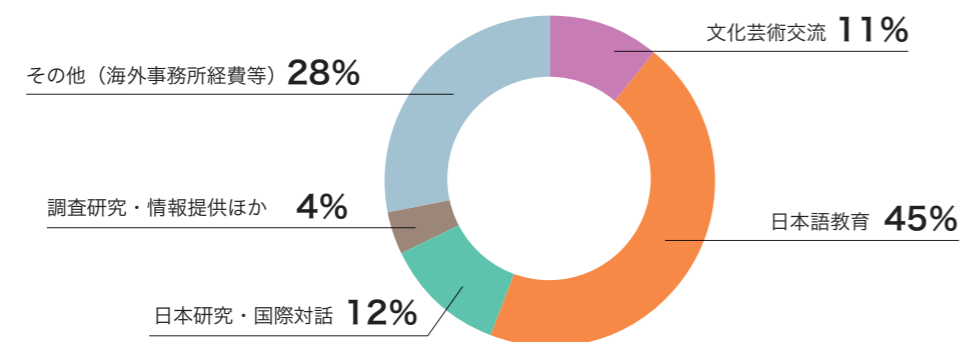
経常費用		
文化芸術交流事業費	1,604,954,984	
海外日本語事業費	6,793,568,342	
海外日本研究・国際対話事業費	1,834,493,397	
調査研究・情報提供等事業費	584,933,172	
在外事業費	4,268,959,434	
文化交流施設等協力事業費	204,307,495	
一般管理費	1,953,265,288	
財務費用	2,111,587	
経常費用合計		17,246,593,699
経常収益		
運営費交付金収益(注)	12,599,662,062	
運用収益	783,513,629	
受託収入	25,467,966	
補助金等収益(注)	1,087,204,480	
寄附金収益(注)		
寄附金収益	6,349,475	
特定寄附金収益	194,673,467	201,022,942
資産見返戻入(注)		
資産見返運営費交付金戻入	396,897,724	
資産見返補助金戻入	532,061	
資産見返寄附金戻入	509,015	397,938,800
賞与引当金見返に係る収益(注)	256,614,954	
退職給付引当金見返に係る収益(注)	214,516,780	
財務収益		
受取利息	64,514	64,514
雑益		
日本語能力試験受験料等収益	733,132,582	
為替差益	1,916,314,179	
その他の雑益	619,971,295	3,269,418,056
経常収益合計		18,835,424,183
経常利益		1,588,830,484
臨時損失		
固定資産除却損	22,513,737	
減損損失	9,910,681	32,424,418
臨時利益		
資産見返運営費交付金戻入(注)	32,424,413	32,424,413
当期純利益	1,588,830,479	
前中期目標期間繰越積立金取崩額(注)	673,854,498	
当期総利益	2,262,684,977	

(注) これらは、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目です。

利益の処分に関する書類 (2023年7月13日) (単位：円)

I 当期末処分利益	2,262,684,977
当期総利益	2,262,684,977
II 利益処分類	
積立金	2,262,684,977
	2,262,684,977

2022年度事業分野別支出構成比



諮問委員会等 (2022年度)

以下の方々に、委員としてご協力いただいています。
(50音・アルファベット順、敬称略、所属・肩書きは2022年度のもの)

諮問委員会等 ※2023年3月31日現在

日本研究米国諮問委員会 American Advisory Committee for Japanese Studies

- Lee Branstetter (カーネギーメロン大学 経済学)
- Julie Nelson Davis (ペンシルベニア大学 美術史)
- Alisa Freedman (オレゴン大学 近代日本文学)
- Andrew Gordon (ハーバード大学 歴史学)
- Eiko Ikegami (ニュースクール大学 社会学)
- Kaoru Iokibe (東京大学 政治学)
- Patricia MacLachlan (テキサス大学オースティン校 政治学)
- Levi McLaughlin (ノースカロライナ州立大学 宗教学)
- Laura Miller (ミズーリ大学セントルイス校 人類学)
- Karen Nakamura (カリフォルニア大学パークレー校 人類学)
- Robert J. Pekkanen (ワシントン大学 政治学/社会学)
- Morgan Pitelka (ノースカロライナ大学チャペルヒル校 歴史学)
- Doug Slaymaker (ケンタッキー大学 日本文学)
- Kären Wigen (スタンフォード大学 地理学/歴史学)
- Satomi Yamamoto (早稲田大学 美術史)

パリ日本文化会館運営審議会

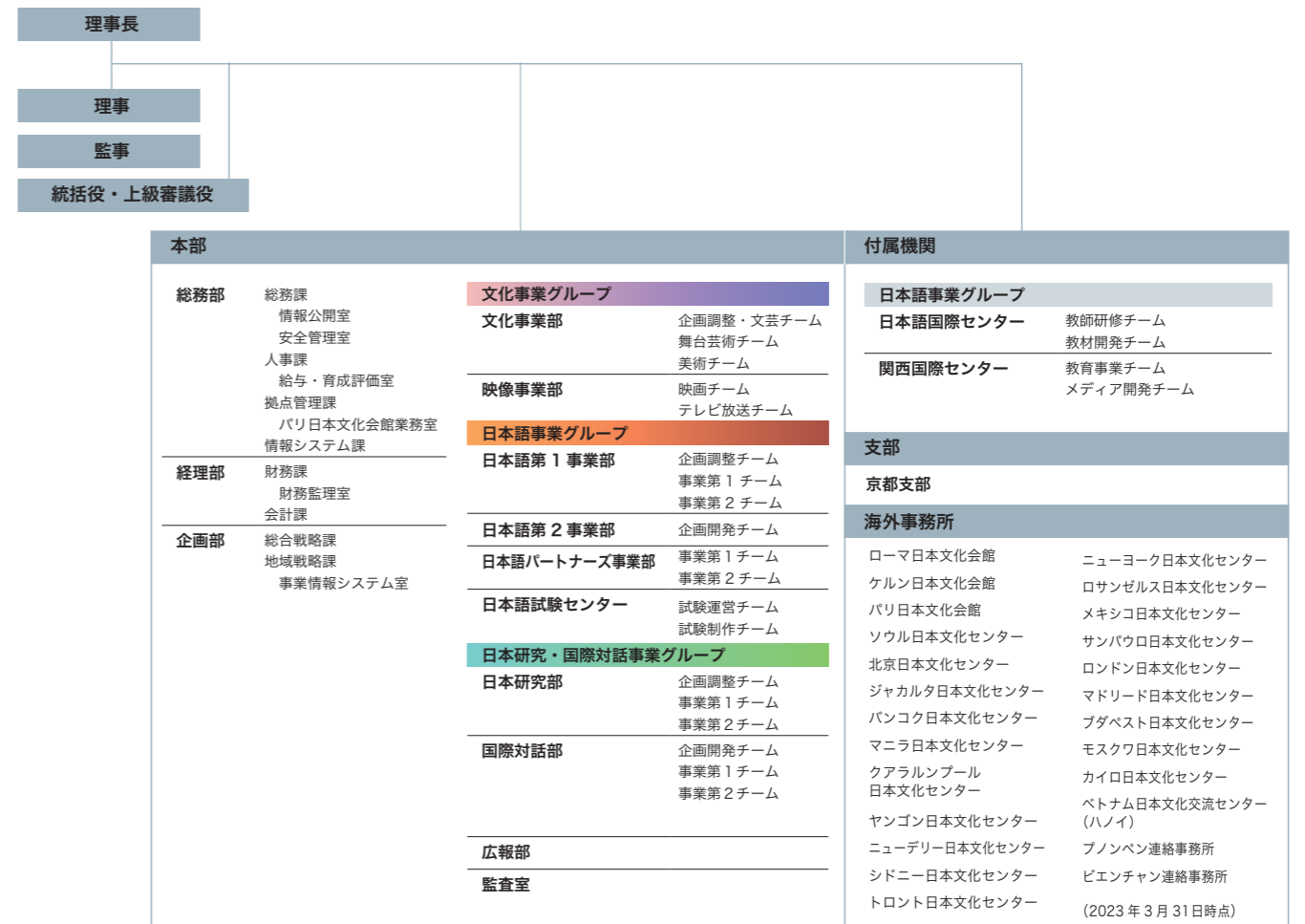
フランス側委員

- Louis Schweitzer (日仏パートナーシップ欧州・外務大臣特別代表)
- Hortense Archambault (セーヌ・サン・ドニ県文化会館館長)
- Jacques Aschenbroich (ヴァレオ社取締役会長)
- Estelle Brachlianoff (ヴェオリア社最高執行責任者)
- Anne Démians (建築家、都市計画家)
- Philippe Faure (元駐日フランス大使)
- Michael Lucken (国立東洋言語文化学院教授)
- Jean-Robert Pitte (フランス学士院倫理・政治学アカデミー終身書記)
- Christian Sautter (社会科学高等研究院日仏財団副理事長)
- Diane de Selliers (ディアーンヌ・ド・セリエ出版)

日本側委員

- 松浦 晃一郎 (第8代ユネスコ事務局長)
- 石井 リーサ 明理 (照明デザイナー/ I.C.O.N. 代表)
- 伊東 順二 (美術評論家/東京藝術大学 COI 拠点特任教授)
- 荻野 アンナ (作家/慶應義塾大学文学部教授)
- 柏倉 康夫 (放送大学名誉教授)
- 酒井 忠康 (世田谷美術館館長)
- 辻原 登 (作家/神奈川近代文学館長)
- 早間 玲子 (建築家)
- 堀場 厚 (株式会社堀場製作所代表取締役会長兼グループ CEO)

組織図 (2023年3月31日現在)



ウェブサイト

国際交流基金ウェブサイト



<https://www.jpf.go.jp/>

JFの事業、イベント等の最新情報、公募プログラムの募集情報、便利な日本語教材、過去に行った調査報告、海外事務所のウェブサイトへのリンク等、さまざまな情報を発信しています。

オンライン・コンテンツ（動画、読み物等）

オンラインで楽しめる公演や展示、講演会・セミナー等の動画や、文化交流の最前線に立つ人々のインタビューや寄稿等のコンテンツを提供しています。

- JF digital collection https://www.jpf.go.jp/j/project/digital_collection/index.html
- ウェブマガジン「をちこち」 <https://www.wochikochi.jp/>
- 舞台芸術情報 "Performing Arts Network Japan" <https://performingarts.jpf.go.jp/>
- 舞台公演オンライン配信プロジェクト「STAGE BEYOND BORDERS」 <https://stagebb.jpf.go.jp/>
- 芸術・文化紹介映像配信ポータルサイト「Doors to Arts of Japan」 <https://www.daj.jpf.go.jp/>
- ヴェネチア・ビエンナーレ日本館公式サイト <https://venezia-biennale-japan.jpf.go.jp/j/>
- 日本映画発信ウェブサイト「JFF+」 <https://jff.jpf.go.jp/ja/>
- ミニシアター特集配信企画「JFF+ INDEPENDENT CINEMA」
<https://jff.jpf.go.jp/watch/independent-cinema/>
- 日中21世紀交流事業（心連心ウェブサイト） <https://xinlianxin.jpf.go.jp/>
- 日本語教育オンライン事業 <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/online/>
- 日米草の根交流コーディネーター派遣（JOI）プログラム <https://www.jpf.go.jp/j/project/intel/exchange/joi/index.html>

日本語教育関係の情報

【試験】

日本語学習者の日本語能力評価のための試験に関する情報を提供しています。

- 日本語の試験を受ける <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/test/>

【日本語教師支援】

日本語教師の育成、日本語教材情報、授業のアイデア、海外の日本語教育の現場の声等の情報を提供しています。

- 日本語を教える <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/index.html>

【日本語学習者支援】

日本語学習の教材や、オンラインで学べるeラーニングサイト、映像・ウェブ教材等を提供しています。

- 日本語を学ぶ <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/education/index.html>

【日本語教育事情】

全世界を対象とする「日本語教育機関調査」の報告書や、各国の日本語教育事情等の情報を提供しています。

- 日本語教育について調べる <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/index.html>

【日本語パートナーズ派遣事業】

アジアの中学・高校等で日本語を教える教師やその生徒のパートナーとして、授業のアシスタントや、日本文化の紹介をする人を派遣しています。

- 日本語パートナーズ <https://asiawa.jpf.go.jp/partners/>

資料/リソース/データベース

【翻訳・出版】

外国語に翻訳されている日本の文学作品や、翻訳出版にお薦めの図書に関する情報を提供しています。

- 日本文学翻訳作品データベース <https://jltrans-opac.jpf.go.jp/>
- 翻訳推薦著作リスト "Worth Sharing" <https://www.worthsharing.jpf.go.jp/>
- 翻訳推薦著作リスト "Lifelong Favorites"（児童書版）
<https://www.worthsharing.jpf.go.jp/lifelong-favorites/>

【映画】

約6200本以上の日本映画の情報を、日本語・英語で発信しています。

- 日本映画データベース（JFDB） <https://jfdb.jp/>

ソーシャルメディア



- YouTube チャンネル
<https://www.youtube.com/user/thejapanfoundation>



- 国際交流基金 公式 Facebook
<https://www.facebook.com/TheJapanFoundation>
- 日中21世紀交流事業 公式 Facebook
<https://www.facebook.com/JF.Xinlianxin/>
- 日本語パートナーズ派遣事業 公式 Facebook
<https://www.facebook.com/jfnihongopartners/>
- JOI プログラム 公式 Facebook
<https://www.facebook.com/JOIprogram/>



- 国際交流基金 公式 X <https://twitter.com/japanfoundation>
- 日本語パートナーズ派遣事業 公式 X <https://twitter.com/NihongoPartners>



- 日中21世紀交流事業 公式 Instagram https://www.instagram.com/jf_xinlianxin/
- 文化事業部美術チーム 公式 Instagram https://www.instagram.com/jf_visualarts/